「いい音」ビューティフル。

自由に気ままに楽しもう、おしゃれなミニカセットレコーダー。

新開発DNSSテープヒスノイズカット回路内蔵。
デジタル選曲機構装備。メタルテープ対応。

小さなボディながらもワイドなステレオサウンドが楽しめる《ステレオミニ6600》。2つの9.2cmスピーカーが叩き出す4.6W(2.3W＋2.3W、EIAJ/DC)のハイパワーは、豊かなステレオ臨場感を再現します。また曲の頭出しに便利なデジタル選曲機構や、テープ再生中に曲間および曲間に相当する低録音レベル時の耳ざわりなテープヒスノイズをカットする新開発DNSS(ダイナミック・ノイズ・サプレッション・システム)ノイズカット回路を採用。しかもメタルテープ対応ヘッドを搭載しています。

●AM放送の同調がしやすい周波数間隔を広げたロングスケール採用 ●テレビの1、2、3チャンネルが聴けるFMワイドバンド(76～108MHz)採用 ●FM局間ノイズをカットするFMミューティング機能つき ●フルオートストップ機構 ●ソフトイジェクト機構 ●ACアダプター付属

●9.2cmスピーカー×2 ●実用最大出力4.6W(2.3W＋2.3W)EIAJ/DC ●3電源/DC:9V(単2×6)、AC:100V50/60Hz(付属ACアダプター使用)、カーバッテリー:別売りカーアダプターD-72使用 ●大きさ幅41.0×高さ13.3×奥行7.3(cm) ●重さ2.5kg(乾電池含む) ★キャリングケース(別売りL-6600 ¥4,000)もございます。

ステレオ ミニ

TRK-6600 ¥44,800

品質を大切にする〈技術の日立〉

RADIO CASSETTE RECORDER

―― 生活と技術をむすぶ ――

日立家電販売株式会社

〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111

ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合日立のクレジットがご利用いただけます。

●商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求はお近くの日立の家電品取扱店へどうぞ。★日立カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。★日立カセットレコーダーには保証書がついています。ご購入の際には必ず記入事項をご確認のうえ、お受取りになり、大切に保存してください。

全日本女子ヨーロッパ遠征へ

全日本女子が6年ぶりに本場・ヨーロッパへ遠征する――日本協会強化部女子コーチングスタッフは、9月22日から10月4日までユーゴ、オーストリア遠征する全日本女子の（56年度ナショナルチームA）の選手選考を進めていたが、このほど別表のような14選手を決定、日本協会へ提出した。日本協会では、9月17日の全国理事会（東京）で承認、21日にプレス発表の予定である。

◇

全日本女子がヨーロッパへ遠征するのは、50年12月ソ連で行われた第6回世界女子選手権以来、実に6年ぶりのこと。

今回の遠征の目的は、来春に予定される第8回世界女子選手権アジア予選（詳細未定）の突破におかれ、コーチングスタッフも、遠征メンバーを、即予選メンバーとすることで。チームを編成している。注目されるのは、モントリオール・オリンピック代表・紀野（立石）の復帰だ。

4年前の第7回世界女子選手権予選（ソウル）の対韓国2回戦を最後に、全日本から遠去かっていた紀野は、53年度からはナショナルチーム名簿にも名前が記載されなくなった。モントリオール当時から痛めていたヒザが悪化、ホームチームの立石電機のユニホームさえ脱ぐ時期があったが、昨シーズンの日本リーグで鮮やかなカムバックを見せた。

モントリオール以降、相次ぐベテラン、中堅の〝引退〟で、チームの柱を失い、それが韓国に追い越される一因ともなっていただけに、紀野の復活は、コーチングスタッフにも注目され、今夏、ナショナルチーム再編成とともに、3年ぶりの全日本復帰が決まった。

男女を通じ、このような形のカムバックは、極めてめずらしい。

このほかのメンバーでは、すでに実績のある桑原、姫野（ともに立石）、山本（ジャスコ）、水上（日立）、西（大崎）らのほか、井村（立石）、矢部（ジャスコ）の両GKが〝中心〟になっている。

また若手アタッカーとして期待の大きい藪田（立石）、志村（日ビ）、竹内（ブラザー）のトリオと、中堅組ともいえる横山、辻本（ともにジャスコ）、羽立（立石）らの存在は、久々にバラエティに富んだ布陣となり、現在、最強のメンバーが選考された、といってよい。

興味深いのは、井村、山本、水上ら2年前の世界女子ジュニアの代表7人が、その成長した姿を、今回のチームで見せていることだ。

立石、ジャスコが中心

選手の所属チーム別では、立石6人、ジャスコ4人が目立つ。

これは、5月の強化委員会（本誌198号既報）で、総花的なチーム編成よりも、単独チーム・プラス有力選手で速効的な強化をという意見が多かったものを、反映させた、といえる。

また、コーチングスタッフも、立石電機監督で現・強化委員の井薫氏の新加入が明きらかとなった。井コーチは、モントリオール・オリンピックで全日本女子が5位入賞した時の監督。52年に退任（本誌154号参照）していたもので、4年ぶりのカムバックである。

代表チームは、9月22日午後8時45分発のルフトハンザ機で成田を発ち、23日から29日までの1週間はユーゴで6試合のハードスケジュールが組まれ、そのあと9月30日から10月3日までオーストリアに移り2試合の予定。

ユーゴは、モスクワ・オリンピックの銀メダル国で現代最強の力を誇る。

オーストリアは、日本とは互角の力倆とみられ、1試合がナショナル、1試合が同国ナンバー・ワン、ヒポ銀行HC（54年来日）が予想される。帰国は10月4日午後になる。

全日本女子訪欧チーム

▽団　長　鈴木　義男（日本協会強化委員）
▽監　督　池田　鉄哉（日本協会強化委員）
▽コーチ　緒方　嗣雄（日本協会強化コーチ）
　　　　　井　　薫（日本協会強化委員）

	氏名	年齢	所属	身長	出場回数
▽GK	井村文光子	22才	立石電機	170cm	④
	矢部登茂子	21	ジャスコ	172	⑥
▽FP	紀野奈々美	25	立石電機	165	㉒
	羽立　節子	23	立石電機	159	初
	桑原　広子	23	立石電機	163	②
	姫野五十鈴	23	立石電機	154	②
	藪田　典子	21	立石電機	165	初
	横山　澄江	24	ジャスコ	159	初
	山本二三代	23	ジャスコ	160	①
	辻本　典子	22	ジャスコ	166	①
	志村　和子	20	日本ビクター	165	初
	竹内　保子	20	ブラザー工業	162	初
	水上　清美	22	日立栃木	166	③
	西　　典子	23	大崎電気	168	②
▽特別帯同選手					
	木下　智子	23	立石電機	162	・

・右欄数字は公式国際試合出場回数

『ハンドボール』

56年9月号（第200号）目次

【表紙写真】昭和56年度インターハイ男子決勝戦、下松工対明星高の熱戦

●昭和56年度全国高校総体兼高松宮賜杯第32回全日本高校ハンドボール選手権大会

全国高体連ハンドボール部副部長
本大会競技委員長　清水　正

総評

昭和56年度全国高等学校総合体育大会高松宮賜杯第32回全日本高等学校ハンドボール選手権大会は、8月1日、古くからの宿場町として栄え、織物産業の町として広く知られる東京都八王子市の中央大学第一体育館における開始式に始まり、2日より7日までの6日間室内4面、室外2面のコートにおいて、全国各都道府県2千4百余チームより激しい予選を勝ち抜いた代表、男・女各48チームの精鋭により、母校の名誉とスポーツの栄光を目指し、「はばたけ青春広げよう友情」の大会スローガンの下に日頃涙と汗で鍛えぬいた成果を競い合い、若さと力強さに溢れた熱戦が連日繰り広げられた。

開始式は例年見られる華々しさや、ローカル色は見られなかったが、洗錬された運営の中に2千余人の若人の繰り広げた大スペクタルは、整然たる中にも若さと力強さが溢れ、折柄の猛暑をはね返すような気迫が明日よりのゲームへの意欲を秘め立派なものであった。

男子

競技の男子Aゾーンでは、春の選抜大会優勝校の中京高を破り、本大会においても優勝候補の筆頭に挙げられていた愛知高が、3回戦で法政二高に前半は楽に優位を占めたものの、しつような食い下りにあえなく敗れ去った。勢いに乗った法政二高は、準々決勝において宿敵富岡高を破った。富岡は前半リードされたあせりからか、ディフェンスが荒くなり、終盤逆転のチャンスも2人退場のピンチをつくり、その間に加点され敗れてしまった。その他、佐世保北、岐阜商も善戦したが、いずれも組合せに恵まれず、1、2回戦で姿を消してしまった。

Bゾーンでは予想通り、福岡工下松工がスピードのあるダイナミックな攻撃で楽に勝ち進み、準々決勝で対戦したが立ち上り福岡工の堅さをついて、持ち前のスピードを生かし連続点を先取した下松工のゆとりと、福岡工のあせりが勝敗を決定した。

その他前評判の高かった、上田高、駒大附高、小松高のいずれも緒戦で敗れ去った。3回戦で下松工に大差で敗れ去ったが、日川高の終始スピーディな攻撃は若人の試合らしくさわやかなものであった。

Cゾーンでは、2回戦で氷見高対四日市高、湯沢高対北陸高の好試合が見られたが、氷見高、湯沢高がいずれも地力で辛勝。比較的楽に駒を進めた。浦和実高は、準々決勝で対戦した都島工の善戦により白熱した好ゲームとなったがGK佐藤の好守もあり浦和実高が振り切った。

Dゾーンでは、青森商、盛岡商静岡農、明星高が順当に勝ち進み青森商対盛岡商は盛岡商が前半初めコンビプレーで3点をリードするも、青森商もよく反撃し、ロングシュートと速攻の得点の取り合いとなり好ゲームであったが、盛岡商のペナルティスローの失敗があり、青森商の辛勝となった。速攻を武器とする明星高とセットコンビネーションを誇る静岡農の対戦は、明星の地力が勝り、青森商対明星高の準々決勝戦となった。両チーム共スピードに乗った攻撃と明星高の粘りのあるディフェンス、青森商の長身を利しての高いディフェンスと両者相譲らず好ゲームとなったが、後半青森商の疲れをついた明星高のリードを青森商も見事なダブルスカイプレーで反撃したが及ばず敗れ去った。

準決勝戦は関東地区3校、中国地区1校の対戦となった。法政二高対下松工は下松工の地力が勝りつねに主導権を握り自己のペースで試合を進めたのに対し、法政二高は堅くなり反撃のチャンスも下松工GK中西の好守に阻まれ敗れてしまった。浦和実高対明星は関東同士で互に手の内を知っており過度に慎重になり遅いゲーム運びで試合を進め少ない得点で競りあったが、浦和実高は終了近くに明星高のラフなディフェンスによる退場による機をつかみ、3連続得点を挙げ反撃したが及ばず明星高の勝利となった。

決勝戦は、下松工の出足良く速いパスワークと長身を利しての高い位置より得点を重ね3点を先取したのに対し、明星高はゴール前の動きが小さく苦戦となったが、下松工の2本のペナルティの失敗で自己のペースをつかみ得点し対スコアとなり、決勝戦にふさわしい伯仲したゲームとなった。下松は明星高GK宇田川の前に出るすきを巧みにつかみ浮かしたシュートを多発、前半は成功したが、これを読まれ再三失敗し追いつかれる要因となったが、終了5分前より調子を取り戻し前半は2点リードで終った。

後半地元の声援に明星高は奮起し、巧みなボール廻しよりチャンスをつかみ、ポスト・サイド攻撃にロングシュートと多彩な攻撃で反撃し、下松工も巧みなコンビネーションプレーにロングシュートを折り込み大接戦となった。明星高は終了5分前より再三同点のチャンスをつかんだが、ペナルティスローの失敗に加え、前半のディフェンスの荒さが退場に結びつき定評あるディフェンスが甘くなり1点差で惜敗した。ともあれつねに劣勢の中で最後まで逆転優勝の期待を持たせた、明星高の健闘は地元のファンのみでなく賞讃される一戦であった。

女子

女子Aゾーンは、予想どうり小松市女が圧倒的強さを示したが、スピーディな攻撃とシュート力を持つ筑紫女、巧みなパスワークとフォーメーションプレーの新鋭和光高の健闘が目立った。小松市女対和光高の準々決勝は、前半小松市女がパスカットから速攻につなぎ得点を重ねたのに対し、和光高はサイド攻撃、ポストからペナルティを誘い加点し接戦となったが後半、走力に勝る小松市女がカットインや相手のシュートミスを速攻につなげ地力勝ちとなった。

Bゾーンは、1回戦前原高対有磯高、夙川学院対群馬女短付高、2回戦有磯高対山陽女高、涌谷高対夙川学院と1点差の伯仲した好ゲームが展開されたのを始め、激

しい競り合いのゲームが多く最も激しいゾーンとなった。
静岡城北高、山陽女高、夙川高とかつての優勝校が次々と姿を消し、準々決勝は有磯対熊本女商の争いとなり、熊本女商はロングシュートとスピードにのったカットインからの速攻で先制したが、有磯高もポストプレー、ロングシュートで応戦したが、熊本女商の速い攻撃にディフェンスがつききれず敗れた。
Cゾーンは、名女短付高、粉河、彦根西、徳山の選抜大会出場組に秋田和洋、明倫の古豪に加え地元の藤村女高とこのゾーンも激戦となった。粉河高対秋田和洋は、前半粉河の不調をついた秋田和洋が辛勝し、彦根西高対徳山高は大接戦の末延長となりディフェンスにやや勝る彦根西高が攻撃のリズムを早くつかみ勝ち進んだ。
2回戦彦根西高対明倫も好ゲームとなったが後半、2回のカットインからの速攻で得点をつかんだ彦根西が逃げ切った。地元藤村は健闘し3回戦に進出したが名女短付高の速い動きにつききれず前半は接戦であったが後半つきはなされてしまった。
準々決勝は比較的楽に駒を進めた名女短付高と彦根西高の対戦となったが、速いパスワークとフォーメーションプレーの巧みな名女短付高が走り勝った。
Dゾーンは、期待された晩高、栃木女高、郡山女高がそれぞれ2、3回戦で敗れ、日川、水海道二高の関東同士の準々決勝戦となり、日川保坂の巧みなフェイントよりの強力なシュートと水海道二高小口、下條のロングの打ち合いとなった。後半日川は相手退場の機をつかみ一時は4点をリードしたが保坂をマンツーマンディフェンスされ、ペースが乱れ、パスミスやシュートミスを重ね追い込まれて延長戦となり、リズムに乗った水海道二高がやっと逃げきった。
準決勝戦の小松市女対熊本女商は開始早々熊本女商に多少固さが見られキャッチミスが見られたが先取点を取った後、調子を取り戻し両チーム共スピードのある攻防が展開され熊本女商はフリースローから、小松市女は速いパスワークからポストに、また、カットインから速攻とそれぞれ得点を重ね熱戦となったが熊本女商はノーマークシュートとペナルティスロー3つを落とし、それが得点差となって前半を終った。後半小松市女のスピードが勝り、ディフェンスの荒くなった熊本女商はペナルティスロー4本をきめられる一方反撃のチャンスもペナルティ2本の失敗で引き離され敗れ去った。
名女短付高対水海道二高は、水海道二高が下條を軸としたロングとカットインからの速攻で先制したが、名女短付高も柴田の小まわりのきいたフェイントインしてのシュートと速攻で加点し大接戦となった。後半名女短付高は田中の好守より速攻につなぎ4点を連取し逆転すると共に足を使っての着実なディフェンスで水海道二高を10分間無得点で押えたのに対し水海道二高はあせり気味で単発のシュートやラフプレーで退場を出し引き離され惜敗した。
決勝戦は、名女短付高の出足よく、小松市女のディフェンスが中にまとまりサイドが空くすきをつかみ、サイドから得点を重ねたのに対し、小松市女は優勝を意識してか固くなり、ボールがつながらず苦戦したが、名女短付高の荒いディフェンスに助けられペナルティスローにより追いつき、前半終わり名女短付高が再三にわたるラインクロスでチャンスをつぶしたのに対し、小松市女は自己のペースで得点を重ね引き離した。後半名女短付高にあせりが見え凡ミスを繰り返したのに対し小松市女は余裕ある攻撃で得点を重ね、点差が開くと共に名女女短付高の動きに連繋がなくなり単発の攻撃となり、小松市女の圧勝で終った。

終わりに

全般的に本年は男子では下松工明星高、浦和実、女子では小松市女の力が傑出し、常に安定した試合運びが見られたと共に、これに次ぐチームが多く見られたことは高等学校のハンドボール界の層の厚くなったことを如実に示すものであり、心強さを強く感じるものがあった。
チームの構成としては、スタープレーヤーに依存したチームよりは全員の攻守に亘る力の優劣が勝敗を決定した感があると共に、「攻撃は最大の防禦なり」の古い諺の如く攻撃型チームが良い成績を収めた。またレベルの向上は、テクニックやスタミナの養成のみでなく、ゲームの多様化に対応する適応性や精神力の養成も大切であることを感じさせた。本大会が猛暑の中での永い期間の大会であり、これに打ち克つためには強い体力と精神力の養成が今後の課題になることと思う。
大会運営については、大都会という特殊環境から施設面においては、すばらしいものでありましたが、立地条件からして宿舎が広い地域への分散、外部団体の協力状況等、今までの大会に見られない特殊条件が多くあったことと思いますが、役員選手一丸となって盛り上げた本大会の成果は立派なものであり、東京都高体連ハンドボール部を中心とした関係者の努力は並々ならぬものがあったことと深く敬意を表するものであります

男子は　下松工が初優勝

女子は　小松市女が3年ぶり5回目の優勝

8月2日から7日までの6日間，東京・八王子市の中央大学第一体育館に於て熱戦をくり広げた昭和56年度インターハイ。男子は下松工が決勝で地元東京の明星高を大接戦の末降して初優勝，また女子は"大本命"と前評判の高かった小松市女が安定した戦いぶりで危げなく勝ち進み3年ぶり5回目の優勝を飾った。ここにその熱戦の跡を御紹介しよう。

男子

▽1回戦

大分東（大分）23（13−5 10−8）13 高松南（香川）

前半は両チーム共動きが硬く、遅い展開で進んだが、前半の終り頃から大分東の足が良く動くようになり、後半の立ち上り速攻で3点連取した。以後も高松南の甘いディフェンスを良く攻め、勝利を収めた。（清水）

塔南（京都）16（8−9 8−5）14 大石田（山形）

技巧の塔南は、終始基本に忠実なプレーで勝利を得た。大石田は前半に得点出来るチャンスを逃したまま最後までペースに乗ることが出来なかった。塔南の2・1をつくる攻撃、大石田のロングシュートと、得点に結びついたチームの勝利という好ゲームであった。（藤原）

富岡（群馬）25（12−9 13−7）16 巻（新潟）

両チームのスピード、シュート力などにかなりの差があり、素早い攻守を見せる富岡は速攻に冴えを見せ、またセットを組んでも早い動きから楽々と得点をあげた。後半に入っても、巻は時折見せるポストシュートで反撃するものの全員で攻め上げる富岡を追い上げるには及ばず、富岡の楽勝であった。（北井）

修道（広島）23（9−11 14−11）22 佐世保北（長崎）

出だし硬さのとれない佐世保北に対し修道は⑦、⑨、②と3連続得点で先行する。その後も確実に加点するが、佐世保北も修道のディフェンスの甘さをつき④、⑥が中央をついていった。後半に入り修道⑦、佐世保北④に対し互いにマンツーをかける。ここで修道は攻撃が鈍くなり一気に差をつめられ以後一進一退となるが、最後にスカイプレーをしかけた修道が逃げ切った。（菊池）

福岡工（福岡）27（14−2 13−2）4 駒大高（東京）

攻守に全くそつのない福岡工は速攻に出てもパスのつながりもよく、またセットを組んでも鋭い動きで駒沢を寄せつけなかった。（北井）

函館有斗（北海道）23（11−10 12−11）21 倉敷天城（岡山）

前半両チーム共セットオフェンスからポスト、サイド、ロングシュートを決め、一進一退の攻防が続き函館有斗が1点リードで終了後半もセットオフェンス（ダブルポスト）から両チーム攻撃するも函館有斗は倉敷天城の甘いディフェンスをつきリード、勝利を収めた。（中島）

明石（兵庫）23（12−13 11−4）17 小松工（石川）

立ち上りからのびのびプレーする明石は、ディフェンスで小松工のツーポスト、ローリングの戦法を封じて速攻を多用し着実に加点をした。小松工もディフェンスのつめに弱さが目立ち、またシュートミスも大事な場面で見られ、前半完全に明石のペースにはまった後半小松工のローリングからのカットインも調子を出し追い上げムードになったが、明石の足を使ったディフェンスの前にもう一つ力が出し切れず終った。（千野）

新居浜（愛媛）23（12−6 11−6）12 鎮西（熊本）

立ち上り両チーム共緊張気味でボールが手につかなかったが、2分、新居浜・高岡の速攻が決まるついで横山のロングシュートと新居浜がペースをつかんだ。これに対して鎮西は速攻をくり返し出すが、最後のシュートが決らず苦戦する。後半、新居浜のこぼれ球から速攻につないで追撃体制を整えたかに見えたが、新居浜・伊藤の強引とも思える突っ込みにディフェンスを割られ逆襲を許す。その後一進一退をくり返すがディフェンスの差が出て、ジリジリと新居浜がその差を広げた。特に新居浜GK牧野の好守が光っていた。（矢澤）

四日市工（三重）27（14−9 13−8）17 追手前（高知）

のびのびプレーする四日市工はロング、速攻と着々と得点し、前半完全に四日市工のペースで試合が行われる。高知は個人技になりがちで、四日市工のディフェンスをくずす事が出来なかったが、サイドからのシュートで得点をあげ8−13で前半終了。後半に入り高知もコンビがとれ得点をあげるが前半の差をちぢめる声が出来なかった。（斉藤）

浦和実（埼玉）28（14−9 14−3）12 境港工（鳥取）

立ち上りシュートミス、パスミスが目立ったが、浦和実は先取点を取ってから落ち着きを取り戻し境港工の雑なシュートをキーパーからの速攻で加点し、前半は14対3と一方的な展開。後半も浦和実は全員でよく走り着実に加点、楽な試合運びとなる。境港工にもう少し元気さが欲しかった。（横瀬）

北陸（福井）26（4−3 1−1 13−9 8−12）25 国学院栃木（栃木）

前半国学院栃木はセット攻撃、北陸は速攻で得点をあげ接戦であったが、終了直前北陸にキャッチミス、シュートミスが出て得点が開いてしまった。後半も両チーム共前半と同じようなゲーム展開になったが、北陸が良く走り同点となり延長に入る。延長戦は積極的に攻撃した北陸に凱歌が上る。（町田）

都島工（大阪）14（8－5、6－6）11 学法石川（福島）

学法石川は都島工のエース仁義を徹底したマンツーマンで守るという策をとったが、速攻でのパスミス、ノーマークシュートを落とすなど前半は8－5と都島工優勢で終る。後半も学法石川は得点チャンスをパスミス等で自滅した。（栗岩）

柏（千葉）22（12－3、10－8）11 神埼（佐賀）

柏は神埼のパスミス、キャッチミスからの速攻やセットから着々と得点を加える。一方神埼はシュートを打つも柏GK江口の好守で前半10－3と大きくリード、後半神埼も柏のパスミスを得点に結びつけるも柏のスピードが勝る。神埼はディフェンスが課題。（槇田）

盛岡商（岩手）25（14－12、11－7）19 八幡工（滋賀）

立ち上り両チーム共ボールが手につかず攻撃が得点に結びつかなかったが、3分半盛岡商がサードシュートからのペナルティスローをものにしたのをきっかけに、武田、櫛田の両ロングシュートを軸にして得点を重ね、11対7で前半終了。後半に入ると八幡工が必死に追い上げたが同点にするのが精一杯でリードを奪うことが出来ず勝利は盛岡商のものとなった。（後藤）

■インターハイ・男子を見て■

竹野　奉昭

優勝した下松工（山口）は、久久に高校生らしい、好印象の残るチームであった。なによりも50分間の試合時間1秒たりとも気を抜かず、あらゆるプレーに全力をつくしていたのは、素晴しかった。

全力をつくす、最善をつくすということを言葉で出すのは、簡単だが、実際に行動で示すというのは、相当の鍛練と、よほどの精進力がなければ出来ない

下松工は、最初の試合から決勝まで、その姿勢を貫き通した

1秒たりとも気を抜かないという選手の動きは、相手に得点を奪われたあと、まったく気を落さず反撃のスローオンに向かったことでも分かるし、得点を奪ったあと一目散に自陣へ戻り相手の攻撃を待ち構えていたことでも分かる。

こうしたマナーを身につけているチームは、年々少なくなっていたのだ。

下松工の勝因は、もちろん、そうした精神力ばかりではない。

一人々々のディフェンス力は、基本に忠実でみがかれたものがあったし、攻撃力も、全員が技巧に走らずスピード一本の自信にあふれていた。

フリー・スローからの展開も、時に慎重、時に大たんで、理論的に組み立てられたものであった。

下松工は、勝つべくして勝ったといえる。

準優勝の明星（東京）も好チームだった。特にディフェンスの強さは、下松工に劣らず、守りのよいチームが、決勝を争ったことは、今大会全般の評価をあげるものである。

このほかのチームでは青森商、盛岡商（岩手）の東北勢、浦和実業学園（埼玉）などのパワーが目についた。

全体に、各校の主力選手が、中学時代からのキャリアを活かし、プレーが多彩になってきている。

中学界の充実が、高校界に好影響を与えているわけだが、それだけに、今後は、ますます高校指導者の資質が問われることとなろう。

終りに、今年は、大会の大半がインドアで消化された。

見る側の集中感、運営側の円滑さといろメリットはあろうがやはり、インター・ハイの醍醐味は炎天下のグランドに、陽やけした身体を、ぶっつけ合わせてこそ、にあると思う。

ギラギラした夏の太陽の下で走り、投げ、跳ぶ姿こそ、あすの日本ハンドボール界を荷う若い力――そう思うのは、私だけだろうか。（日本協会強化部長　全日本男子監督）

静岡農（静岡）41（17－11、24－8）19 池田（徳島）

開始早々テンポの速い攻撃から2点を連取した静岡農は、その後もセット、速攻と素早い攻撃で池田を圧倒しつづけた。池田は前半2分高橋がかえし2対1とせまったのが精一杯、総合力に勝る静岡農は望月、森が軸となり足を生かしての素晴しい攻撃を見せてくれた。一方池田は技術的にもやや劣り、ゲームの盛り上りを欠いていた。（三枝）

仙台一（宮城）21（8－9、10－9、2－0、1－2）20 前原（沖縄）

試合開始早々仙台一はPT、速攻で連続3点。一方前原は、兼本のサイドからの得点でペースをつかみ、相手ミスからの速攻、さらに不正交代1人退場の時に2得点を加え、前半終了直前に速攻で1点リードで終る。後半に入り前原はGK荒木の好守と速攻、フェイントからのシュートと得点を重ねたが、仙台も終了直前佐藤、西山のガッツあるプレーで同点に追いつき延長に入る。延長に入ると今までロングシュートの決まらなかった仙台・大平がロングシュートを決め、さらに大平のカットからのドリブルシュートでリード、前原も後半に入り同点に追いついたが、仙台GKの巧プレーから速攻で仙台一が逃げ切る。（島田）

▽2回戦

愛知（愛知）22（11－8、11－5）13 大分東（大分）

前半両チーム共ミスが目立ったが、愛知が速攻で着々と得点をあげたのに対し大分東は愛知のディフェンスを崩す事が出来ず、11－5と愛知リードで前半終了。後半に入り大分東もボールが良く回って得点をあげるが大切な所でミスが目立った。（斉藤）

法政二（神奈川）30（10－9、20－9）18 塔南（京都）

シュート力に勝る法政二は、中沢、細田を中心にローリングから力強いシュートで楽々とリードを奪った。塔南も最後まで必死に食い下ったものの、法政のディフェンスの壁をなかなか破れず、特に法政GK上條の沈着なボール処理も良い攻撃を生み出していた。（北井）

富岡（群馬）29（16－6、13－3）9 添上（奈良）

富岡は立ち上りから自己のペースに乗り、速攻やポストプレーで得点を重ねる。これに対し添上は富岡のディフェンスを破る事が出来ず、シュートミスやパスミスをくり返し敗れた。（町田）

修道（広島）17（12－8、5－7）15 岐阜商（岐阜）

スピードの岐阜に対しコンビネーションを主体とする修道は、立ち上り動きの鈍い岐阜商のディフェンスを破ってリードする。岐阜もようやく動き出し、パワフルなシュートで追い上げるも追いつけず。後半に入って必死に攻める岐阜の再三のノーマークを防いだ修道GKの好守もあり、23分岐阜は1点差に追い上げたものの及ばなかった。（北井）

福岡工（福岡）26（12－7，14－7）14 上田（長野）

福岡工は長身者（池田185cm、浜口184cm）2名に左腕2名と理想的なチーム構成で、加えて足を使った攻・守・走にチームの特長が出ていた。これに対し上田は主将の柳沢を中心としてよくまとまっているが、シュート力において確実さに欠けるところがあり、これが勝敗のカギとなった。上田GK井沢の好守が光ったが涙を飲んだ。（矢澤）

函館有斗（北海道）21（10－9，11－9）18 粉河（和歌山）

函館はブロックを利用したポストの回り込み、粉河はサイドのずらし攻撃で前半は一進一退。後半に入り函館は開始早々2本のPTをミスしたが、粉河は攻撃が単純でリード出来ず、逆に11分函館はフォーメーションからの得点でペースをつかみ、速攻も出るようになりそのまま逃げ切った。（島田）

日川（山梨）18（9－6，9－7）13 明石（兵庫）

立ち上りスピード豊かなローリング攻撃からミドルシュートで先行した明石だったが、体格、パワーで勝る日川がペースをつかみ前半9－7でリード。後半に入り明石は持ち前のスピーディな攻撃で素晴しい粘りを見せ1点差まで追いつめたが、地力に勝る日川が辛くも逃げ切った。（杉山）

下松工（山口）29（16－5，13－9）14 新居浜工（愛媛）

終始下松工が先手をとり、主将香井の巧みなプレー等で着実に加点し前半を終了した。後半、新居浜工は走りが少なく、しかも攻撃パターンがポストプレーに固執した為、下松工の一線防御を崩せずミスを速攻に結びつけられ敗れた。（栗岩）

氷見（富山）21（12－9，9－9）18 四日市工（三重）

好チームの対戦。前半はどちらも主導権が握れず一進一退のゲーム展開で互角に折り返した。後半に入ると四日市工は2点を先取したが、氷見の追撃もすさまじくまたたく間に同点としペースをつかみ四日市を突き放した。（後藤）

浦和実（埼玉）23（10－10，13－4）14 鹿南工（鹿児島）

序盤は互いにペースのとり合いの一進一退が続いたが、前半3－5とリードされた鹿南はたて続けにノーマークを落とし、それにつけ込み浦和実は速攻、多彩なポストプレーと徐々にペースをとった。後半に入っても鹿南は主導権を握れないまま互角に進めたが、前半の差が勝敗を決した。（栗岩）

湯沢（秋田）20（9－8，11－11）19 北陸

両チーム共大きくボールを左右に振り速い動きを見せるが、厚いディフェンスの壁を容易に破れず一進一退。後半に入るや両チーム共鋭い縦の切り込みからシュートを狙い追いつ追われつ。両GK再三の好守で場内大歓声。しかし、残り3分の所で湯沢同点とし、最後23分に身体ごとゴールに飛び込むようなシュートを決めゲームを決めた。両チーム健闘の好ゲームであった。（大塚）

都島工 16（9－4，7－7）11 小林工（宮崎）

両チーム共よく走り小気味よいゲーム展開であった。都島工はフェイント力を武器に、小林工はローリングオフェンスを武器に、前半互いにゆずらず。後半立ち上り都島工が速攻で3点連取したことから小林工のパスリズムに多少の狂いが生じて迫力を欠き、懸命に頑張るが都島工の巧さにかわされてしまった。

青森商（青森）34（20－7，14－6）13 柏

体力に勝る青森商は鋭い切り込みで5分過ぎには5－2とリード柏もフェイントからPTを誘ってよく食い下ったが、前半の終りには速攻で青森商は一気にリード、14－6で前半を終了。後半になっても青森商のスピードは衰えなかったのに比べ、柏はゴール前の走りが浅くディフェンスの壁を破れなかった。（後藤）

盛岡商 28（17－11，11－4）15 松江工（島根）

立ち上りから盛岡商の足を使ってのローリングからのカットインシュートは冴えたものがあった。守ってもGKの好守が要所を死守した。松江工はツーポストからのセットプレーにいま一つ決め手がなく、逆速攻を許す雑なプレーが惜しまれた。（千野）

静岡農（静岡）18（12－5，6－5）10 岩井（茨城）

前半身長に勝る静岡農のロングシュート、岩井のサイドあるいはポストシュートとお互いにセットオフェンスからの得点によるゲーム運びとなったが、両チーム共ミスの多いまま終了した。後半に入り動きの良くなった静岡が得意の速攻を入れ着々と得点をあげ岩井を突き放したが、静岡のディフェンスが良ければもっと楽な試合展開になっていただろう。（新木）

明星（東京）30（17－6，13－5）11 仙台一

明星堅い守りから3、4番が良く走り速攻をかけてマイペース。速いパスワークから6番のミドル2番のポストで着々加点。一方仙

台一はシュートが甘く明星GK宇田川を破れず、逆に速攻をされる悪いパターン、3番のミドル、7番のカットインが光った。前半13−5と明星が走りで突き放して終了。後半は仙台一はシュートに持ち込むがGK宇田川に好守され、7番、4番にワンパス速攻で加点され差は開くばかり。カットインに良いものがあったが、明星の守りは厚かった。明星の走りとGKの好守が目立ったゲームであった（加藤）

▽3回戦

法政二 20（14−8／6−11）19 愛知

立ち上り法政二はやや硬くなりその隙に愛知が速攻でリードを奪う。中盤から点のとり合いとなったが、法政細田の活躍で後半へつなぐ。後半やや疲れの出た愛知のディフェンスをついて終盤に追いつき逆転した。（北井）

富岡 24（13−10／11−10）20 修道

前半修道が先手をとり富岡との一進一退が続いた。後半5分から7分にかけ富岡は修道のシュートミスをつき速攻で4点を連取、17−13として主導権を握った。修道はポストプレーにこだわった感があり、大事な場面での無理なパスが最後まで響き富岡に屈した。（栗岩）

福岡工 22（9−9／13−9）18 函館有斗

総合力に勝る福岡工は、開始早速攻で得点を続ければ、函館はセットから、又相手のミスから得点を返し好ゲームであったが、中盤に入るとやはり福岡は地力の差をはっきりと見せつけふり切った。福岡工のGKの好守が光った。（北井）

下松工 29（14−7／15−7）14 日川

両者立ち上りから力の入った攻防で、3分下松が相手速攻のオーバーステップから逆速攻で先取すれば、日川もフリースローから内田のロングで返し一進一退の序盤だったが、9分半日川・内田の退場の間に6−3と下松がリードして波に乗った。リードされた日川の余裕のない攻めに対し、下松は速攻、遅攻ともに冴え、トリッキーなフリースローも決めて15−7と大きく開いて前半を終った。後半に入っても下松の好調は続き、堅実なディフェンスで日川の無理なシュートを速攻につなげるなどして着実に差を開げ大勝した。（佐藤）

浦和実 22（20−5／10−10）15 氷見

両チーム共立ち上りからよく自分のペースを守り、チームの特長をスピードに乗ったプレーで十分に出していた好ゲームであったがやや個人技に勝っている浦和実が勝利を握った。

都島工 23（12−9／11−7）16 湯沢

ツーポストからローリング、カットイン、ロングなど両チーム同型の攻めのパターンで一進一退でスタートしたが、都島工の走りと細かいパスが良くシュートに結びつき加点すれば、湯沢も45度からのロングを多用し追い上げをしたがディフェンスがラフでPTを許し突き放された。（千野）

青森商 22（14−11／8−8）19 盛岡商

前半盛岡商が9番を中心にコンビプレーで3点リードするが、青森商もよく粘り同点で終了。後半両チーム共よく走り、ロング、速攻と得点の入れ合いとなるが、終了間ぎわ青森商が続けて得点を入れて3点差で逃げ切る。盛岡商も良く頑張ったが、大切な所でペナルティーのミスが出たのは惜しい。（斉藤）

明星 21（11−8／10−6）14 静岡農

スピード、速攻を武器とする明星とセットでコンビネーションプレーを誇る静岡農の対戦は、明星の正確なシュートからのポイントと速攻からのポイントが上回って前半10−6と静岡農に差をつけた。後半両チームのGKの好守と速攻の応戦は見るものがあったが、スピードと走力に勝る明星は1、2年生を登場させる余裕を見せた。静岡農も後半のロング、カットインの追い上げは素晴しいものを見せた。（千野）

▽準々決勝

法政二 24（11−14／13−8）22 富岡

	【富岡】	得	【法政】	得
GK	石井	0	上條	0
GK	寺山	0	波田野	0
FP	広岡	0	生沢	5
FP	佐藤	7	江上	5
FP	相川	3	坪井	2
FP	吉田	0	原田	3
FP	新井	5	横山	2
FP	秋山	6	細田	7
FP	風間	1	小柳津	0
FP	茂木	0	田中	0
FP	桜井	0	菅田	0
FP	岡田	0	堀米	0

（審・後藤 島田）

24（2）PT（0）22

法政二は開始早々からスピードある攻撃で得点を重ね、特に生沢のリード、細田の活躍が光り、一方富岡も法政二のシュートをブロックし、又GKからのボールを巧くつなぎ得点するも前半法政5点リード。後半富岡は速攻から連続得点し、15分には同点。その後一進一退の攻防、19分には富岡2人退場の間に法政リードし、結局法政二が勝利をつかむが、両チームスピードある好プレーの続出であった。（槙田）

下松工 30（15−15／15−10）25 福岡工

	【下工】	得	【福工】	得
GK	中西	0	七條	0
GK	谷	0	中島	0
FP	香井	5	池田	1
FP	相本	8	松井	7
FP	青木	11	瀬戸	0
FP	松永	1	高田	5
FP	岡	4	浜口	10
FP	前田	1	冨田	2
FP	山本	0	三上	0
FP	久木	0	森	0
FP	橋本	0	友納	0
FP	岡	0	井上	0

（審・斉藤 千野）

25（3）PT（1）30

ゲーム開始からスピードに乗る下松工は、連続6得点をあげ主導権を握った。一方福岡工は単調なシュートミスをくり返し、10−15で下松工有利のまま前半を終了した。後半に入りペースを取り戻した福岡工はタテプロからのロングシュートなどで点差をつめるが、下松工は確実にシュートを決め、2点差まで行くのがやっとであった。下松工の攻撃は速く、ボールを持ってシュートまで30秒とかからなかった。（清水）

浦和実 18（9−6／9−7）13 都島工

	【都島】	得	【浦和】	得
GK	福田	0	佐藤	0
GK	洌崎	0	石川	0
FP	狩井	1	茂垣	1
FP	中山	3	鈴木	10
FP	奥原	5	石綿	3
FP	田中	0	小林	1
FP	上田	2	金子	1
FP	仁義	1	細津	2
FP	和田	0	池田	0
FP	桑原	0	増子	0
FP	小林	0	杉浦	0
FP	朝久	0	藤野	0

（審・後藤 島田）

18（5）PT（3）13

浦和実の楽勝かに見えたこの一戦、都島工の善戦で前半終了間ぎわまで五分のゲーム。都島工は守っては福田の好守と仁義を中心としたローリング戦法で浦和実を苦しめた。後半に入っても両チーム共白熱した好ゲームを展開、都島も反撃するもGK佐藤に阻まれ、もう一歩まで迫るが、浦和実は最後まで踏んばり、残り5分で見事ふり切った。（三枝）

明星 18（10−7／8−8）15 青森商

明星 18（3）PT（3）15 青森

【明星】		得
GK	宇田川	0
GK	篠	0
FP	新井	0
FP	田野倉	1
FP	安藤	3
FP	佐伯	4
FP	田村	10
FP	立松	0
FP	長谷川	0
FP	桜井	0
FP	目黒	0
FP	郡司	0
	PT	（3）18

【青森】		得
GK	山田	0
GK	小塚	0
FP	堀内	4
FP	斉藤	3
FP	高田	0
FP	田辺	4
FP	山口	1
FP	張山	3
FP	鶴谷	0
FP	佐藤	0
FP	倉内	0
FP	福田	0
	PT	（3）15

（審・上久保 北井）

互いにスピードに乗った攻撃を展開、これを青森商は高いディフェンス、明星は粘りのディフェンスで守り合い前半相譲らず。後半10分過ぎあたりから明星のスピードが勝り、青森商は高いディフェンスが影をひそめ、明星のロングシュートが決まり出し有利になった。しかし、青森商もダブルスカイを決めるなど最後まで頑張り好ゲームであった。（斉藤）

▽準決勝

下松工 33（17－8, 16－13）21 法政二

【下松】		得
GK	中西	0
GK	谷	0
FP	香井	9
FP	相本	6
FP	青木	8
FP	松永	4
FP	岡	2
FP	前田	4
FP	山本	0
FP	久本	0
FP	橋本	0
FP	岡	0
	PT	（2）33

【法政】		得
GK	上條	0
GK	波田野	0
FP	生沢	7
FP	江上	2
FP	坪井	0
FP	原田	1
FP	横山	3
FP	細田	7
FP	小柳津	0
FP	田中	1
FP	菅田	0
FP	堀米	0
	PT	（2）21

（審・槇田 三枝）

表彰を受ける下松工・香井選手

下松工はボールが手につかない法政二のパス、キャッチミスからの速攻や独特のフリースローから着実に得点を加える。それに対する法政二は、シュートを下松工のGK中西に阻まれ、最後まで主導権を握ることが出来なかった。下松工のスピーディな攻撃に法政二ディフェンスは最後までほんろうされた。（後藤）

明星 11（5－2, 6－8）10 浦和実

【明星】		得
GK	宇田川	0
GK	篠	0
FP	新井	1
FP	田野倉	2
FP	安藤	1
FP	佐伯	1
FP	田村	4
FP	立松	2
FP	長谷川	0
FP	久松	0
FP	桜井	0
FP	郡司	0
	PT	（1）11

【浦和】		得
GK	佐藤	0
GK	石川	0
FP	茂垣	0
FP	鈴木	6
FP	石綿	1
FP	小林	0
FP	金子	1
FP	細津	2
FP	池田	0
FP	杉浦	0
FP	浅利	0
FP	玉木	0
	PT	（3）10

（審・斉藤 千野）

両チーム共遅い試合運びで5－2という少ない得点で前半を終了した。後半に入り、両チーム共動きが速くなり速攻も出だした。終了直前、浦和実が速攻で3連続得点をあげたが追いつくことは出来なかった。浦和はシュートを明星GK宇田川に好守されチャンスをつぶした。一方、明星は浦和のクリーンなディフェンスに比べ警告退場を多く出しピンチを迎えた。（清水）

▽決勝

下松工 18（8－6, 10－11）17 明星

【下松】		得
GK	中西	0
GK	谷	0
FP	香井	5
FP	相本	4
FP	青木	5
FP	松永	1
FP	岡	2
FP	前田	1
FP	山本	0
FP	久本	0
FP	橋本	0
FP	岡	0
	PT	（2）18

【明星】		得
GK	宇田川	0
GK	篠	0
FP	新井	1
FP	田野倉	0
FP	安藤	2
FP	佐伯	2
FP	田村	7
FP	立松	5
FP	長谷川	0
FP	桜井	0
FP	目黒	0
FP	郡司	0
	PT	（0）17

（審・斉藤 千野）

喜びの下松工選手たち。前列右端が星井監督

速攻、セット共に武器とする決勝戦にふさわしい両チームだが、開始早々より自己のペースの下松工を上からの攻撃の出ない明星の差は、前半15分まで下松工有利のゲーム展開。16分、明星は速攻から立松が決めて4－4のタイ。その後両チームGKの好守でやや凡戦気味。後半は両チーム持ち前の力を発揮し好ゲーム。先手、先手とゆく下松工、追い上げを見せる明星だが、本大会随一の守りを見せる下松工GK中西の前に涙を飲んだ。（三枝）

■女　子■

▽1回戦

倉敷天城（岡山）10（3－4, 7－5）9 国分（鹿児島）

倉敷天城の先取点で始まり、国分実も前半終了直前に追いつきPTで逆転4－3で前半終了。後半倉敷天城のミスにつけこみ国分が加点、終了5分前より倉敷天城必死の追上げを見せ残り3分1点差と追い上げ、2分には同点、終了寸前に逆転、みごとな追い上げは素晴しかった。

和光（埼玉）13（7－4, 6－3）7 新居浜商（愛媛）

前半はお互いにボールが手につかないといった感じでプレーが雑になり、パスカットされて速攻あるいは逆速攻のケースが多くみられた。後半は打ち合いになった。和光はポストプレーを中心に新居浜商はロングを中心に攻撃。シュートミスはお互いに目立ったが、チャンスの多かった和光が有利に試合を進めた。（大出）

青森西（青森）16（6－3, 10－4）7 新潟江南（新潟）

青森は立ち上り新潟江南の大型ディフェンスの前から単純なシュート攻撃で苦しんでいたが、前半中ばからボールカットからの速攻で確実に得点をかさね試合を決めた。一方新潟江南は3番菅原の大型シューターに得点をしぼり攻撃するが及ばなかった。（藤原）

筑紫女学園（福岡）11（4－3, 7－2）5 函館女商（北海道）

7分後函館女子8番のロングシュートが決まりようやく試合らしくなってきた。両チーム共単純な攻撃とディフェンスの甘さから思う様に加点がなく、又ミスが多く目立った。筑紫の勝因は、後半の上野のボール出しによる3番石松7番白川の速攻であろう。（高橋）

昭和学院（千葉）24（12－1, 12－1）2 高松東（香川）

立ち上り昭和の2番高坂がペナルティーをきめ、大型チームらしい動きと体を使った多彩なプレーで着実に得点を重ねた。一方高松東は小柄ながら良く動いていたが、パスの正確さにかけ昭和に追いつく事が出来ず昭和の一方的な試合に終った。（浜野）

有　磯（富山）14（4－5、8－7、1－0、1－1）13 前　原（沖縄）

立ち上り3分有磯がサイドより先取。すぐ前原がペナルティースローで追いつき、堅い守り、早いつぶしが有磯の攻撃のリズムをくずすが、後半追いこまれ1点差で前半終了。後半すぐ有磯4番が中央フェイントからカットインが決まり同点とするや攻撃のリズムが出前原をひきはなす。両チームよく健闘したが、アセリからミスの多さを誘い、その後前原がよく追いつき残り10秒というところで同点とし延長に入る。延長に入っても一進一退を続け1点差で有磯が逃げきる。（川島）

夙川学院（兵庫）18（10－7、3－6、1－2、4－2）17 群女短附（群馬）

夙川3番、群女短4番を軸に良くボールを回し得点の入れ合い。スタート夙川に堅さが見られ群女短がリード。10分過ぎ頃より夙川が逆転、両チーム共一進一退のゲームが続き10－7で夙川がやや優勢にて前半終了。後半ミドル、速攻で前半同様点の入れ合い。残り3分頃1点差に追いついた群女短が1分を切った所で4番のフリースローで同点延長となった。延長前半群女短4番のフリースロー、5番のパスカットでリード。後半夙川3番のステップ、ミドル、4番のサイド等で1点リードそのまま終了。悔まれるのは群女短が大事な所でPTをはずしたことだろう。（加藤）

添　上（奈良）16（8－6、8－4）10 米沢女（山形）

前半添上のフォーメーションプレー、早いパスからのステップシュートと多彩な攻撃を見せ、一方米沢女は相手のシュートミス、パスカットから速攻で反撃したが8－6と添上リードで終了。後半も同じ展開となり添上が得点を重ねたのに対し米沢はセットでの決め手がなく、シュートミスからの速攻で反撃しただけで差はつまらず終了となる。（南波）

島原農（長崎）14（5－4、5－6、1－0、3－0）10 塩　尻（長野）

両チームともセットオフェンスからロングシュートへ結びつける攻撃だったが、攻撃が単調でしかもミスが目立ち同じような得点経過をとったが前半は島原のロングがわずかに正確であり優位に終った。後半に入ってもお互いにロングの打ちあいでシュートミスも日立ち結局延長に入った。延長になり島原のパスがよくつながりそれが塩尻を引きはなす原因となった。（今野）

藤村女（東京）21（10－7、11－6）13 富岡東（徳島）

藤村はよく走りロングシュートサイドシュートとよく攻め着実に得点を重ねた。一方富岡は藤村ディフェンスのスキをつきミドルシュートで得点残り5分から藤村はPTを2本決めリード。後半富岡は藤村の走りをとめることができず得点を許した。藤村の走り勝ちだが小さいミスが目立った。（遠藤）

秋田和洋（秋田）10（6－1、4－6）7 粉　河（和歌山）

前半10分まで両チームともペナルティースローによる1点のみだったが、その後攻守ともに一歩勝る和洋が着々と加点し前半を終った。後半粉河はマーク戦法に出、和洋のペースが乱れたかに見えたが和洋GKの好守によりリズムを取りなおしくいさがる粉河をふり切った。（新橋）

彦根西（滋賀）8（3－2、3－4、1－0、1－0）6 徳　山（山口）

前半一進一退の攻防が続き両チームともポストへボールをおとす攻撃をくり返したが、わずかにディフェンスのスキをついて得点を上げ3－2で前半を折り返した。後半彦根西が堅いディフェンスから早い攻めで得点をあげたが、徳山も着実に得点をあげ6－6で延長戦となった。延長戦攻撃のリズムを先に乗せた彦根西が8－6で大白熱戦の幕を閉じた。（若田）

暁（三重）11（7－4、4－5）9 福井商（福井）

前半は速いボール回しとよく走る暁のペースで試合は展開したが終了前に福井ペナルティーを得、4点目を入れ後半に望みをつないだ。後半に入り暁得点が入らない間に福井はじりじりと追いあげ8分20秒に同点においついたが、その後福井リードの時に消極的な攻めになり暁のペースにもどり、再度逆転した。両チーム共によく動く好チームであった。（新木）

郡山女（福島）17（7－6、10－3）9 佐　川（高知）

両チーム共カットインを信条とする似かよったチームカラーでディフェンスにやや粘りのある郡山女が前半を7－6とリード。後半に入りやや疲れのみえる佐川は攻撃が単調になり、じりじりと郡山女が差を開きふり切った。（杉山）

栃木女（栃木）19（9－3、10－3）6 米子南（鳥取）

栃女が8番尾林のサイドシュートで先行すれば米子は長身の2番森のロングで返し接戦を思わせたが、米子が長身の2番森、4番木村にたよった単調な攻めになったのに対し、栃女はスピードある動きで速攻遅攻ともよく攻め9－3と開いて前半を終った。後半に入っても疲れの見える米子に対し栃女はスピードがおとろえず一方的に攻めまくって19－6で終った。（佐藤）

花巻北（岩手）10（5－2、5－3）5 枚　方（大阪）

きびしい暑さのためか両チームとも力を出しきれなかったようだ枚方のディフェンスの当りが激しく花巻もせめあぐんだがつまらぬ動作があって、PTを2本決められ警告も前半で3回受けプレーが消極的になった。枚方は後半になってもPTをはずすなどペースをつかめず花巻はPTを確実に決め常にリードを保った。動きのおとろえなかった花巻北に一日の長があった。（後藤）

▽**2回戦**

小松市女（石川）18（7－5、11－2）7 倉敷天城

前半小松市女は10番のフリースローで先取するも攻防に本来の動きが見られず苦戦し天城の攻防のがんばりが目立つ。後半に入って天城は疲労が目立ち小松市女のディフェンスもよくなり、5分間に速攻で7点をあげ完全に試合を優位に進め余裕をもって勝利をものにした。（川島）

和　光　14（7－5、7－5）10 本　巣（岐阜）

立ち上り本巣は速攻を決めて1点、和光はペナルティースローで1点ではじまる。その後は互いにロングシュートの打ち合いで前半中ばまでは一進一退のシーソーゲームを展開する。和光は前半終了2分間でポストシュート、速攻と決め7－5とリードで終了。後

半和光はフォーメーションプレーペナルティースローと連取し点差をひろげのびのびとプレーし試合を楽に進める。逆に本巣は走りがなくなり雑なシュートが多かった。（横瀬）

青森西 15（4－6 6－4 2－0 3－2）12 桜水商（東京）

共にディフェンスが堅くなかなか得点につながらず前半6－4で桜水がやや優位に終った。青森西は再々シュートチャンスにめぐまれたがシュートの確率が悪く苦しんでいた。後半青森西5番大村の得点で同点にし延長戦にもつれ込んだ。延長前半青森西が2点差とし、後半も得点を重ね青森西が逃げきった。桜水商キーパーの大川の健闘も見せるものがあった。（浜野）

筑紫女学園 15（8－6 7－3）9 東宇治（京都）

筑紫の優れたシュート力が立ち上りから得点を重ねる。東宇治もパスカットからの速攻で必死に得点し、後半立ち上りは東宇治のリズム攻撃も見られるが、速攻サイド攻撃とたくみに筑紫が底力を出し勝利を得た。

▽3回戦

小松市女 14（6－5 8－3）8 和光

小松市女が3分過ぎパスカットから速攻を決めスタートを切ったが、和光もサイド攻撃で返し互角。更に4分過ぎから小松は速いパスからスタンディング、カットインで得点を重ねるのに対し、和光はポストからのペナルティを誘い加点、前半は小松の1点リードで終了。後半開始直後、小松は速い攻めからのカットインを決め、又相手のシュートミスを速攻につなげ差を広げようとし、和光もポストを決め応戦するが、最後までスピードの落ちなかった小松が地力の差で勝ったゲーム。（南波）

筑紫女学園 20（12－3 8－7）10 青森西

筑紫は立ち上りから速い攻撃で8点を連取したのに対し、青森西は筑紫の厚いディフェンスを破れず、前半で試合を決定した。後半に入り動きのよくなった青森西であるが、前半の差を縮めることが出来なかった。筑紫は主将の松田と小兵ながら活躍した白川の働きが光った。（後藤）

有磯 15（6－9 9－4）13 昭和学院

有磯の先取点でスタートしたが昭和がエース高坂の連続ポイントで引き離し昭和の独走かと見えたが、有磯もよく反撃、PTなどで確実に得点、3点差で前半終了、後半開始後、昭和の高坂の2度の退場で有磯が遂に追いつき、11分には逆転する。有磯は高坂をマークに出、2回退場している高坂はシュートを打っても決らず、有磯は着々と加点、追いすがる昭和をふり切った。（新橋）

熊本女商 19（10－4 9－10）14 夙川学院

熊本はパスカットからの速攻、GKからのハーフ速攻で着々と得点を重ねる。それに対して夙川は熊本の堅いディフェンスに阻まれ比較的張い8番と2番の間から割り込んでPTを誘うが、連続得点を得られず最後までペースをつかみ切れなかった。熊本の河野、林田の好シュートが目についた。（島田）

名古屋短大付 19（8－5 11－5）10 藤村女

前半両チーム共良く動き早いテンポの試合となるが、互いにディフェンスが甘くPTの応酬となる。名短付に速攻が見られる分だけリードした、後半動きの鈍くなった藤村に対し名短は速攻により得点を重ね引き離した。両チーム共ディフェンスが悪く、退場者や失格者などが目立った。（菊池）

彦根西 13（5－3 8－8）11 秋田和洋女

前半和洋2点リードも彦根西があわてず反撃し、きびきびとした展開となったが、中盤両チーム共シュートミスが目立った。後半に入っても同じような展開となったが、僅かに身長に勝る彦根西がロングシュート、ポストを多彩な攻撃で和洋をふり切った。（新木）

日川 15（10－4 5－6）10 郡山女

スピードのある日川が6番、7番のシュートで得点を重ねた。一方郡山は2番の4得点にとどまり10－4で前半を終了した。後半に入り、郡山は日川の6番、7番にダブルマンツーをかけ日川を追い上げたが、前半の得点差が大きくスピードとパワーで日川が勝利を収めた。（清水）

水海道二 14（7－2 7－5）7 栃木女

下條をマークされる水海道は激しい攻防から飯野のロングシュート2本を皮切りに終始栃木を圧倒し続けた。又栃木も島田のステップシュートで反撃するも堅い守りの水海道を崩す事が出来ず、水海道の一方的なゲームで終了した。（三枝）

▽準々決勝

小松市女 19（8－2 11－1）3 筑紫女学園

	【筑紫】	得	得	【小松】
GK	上野	0	0	吉田
GK	松崎	0	0	新宅
FP	船曳	0	0	高岡佐
FP	石松	1	2	高田恭
FP	松田	1	6	和田
FP	沢辺	0	0	川端
FP	平野	0	0	大森
FP	白川	1	3	高木
FP	大里	0	4	藤田
FP	伊沢	0	1	勝田
FP	吉松	0	0	中川
FP	陶山	0	3	中嶋

19（4） PT （1）3

（審・植田 三枝）

チーム全員がよくまとまり、幅のある攻撃をする小松に対し、筑紫は小松の厚いディフェンスとGK吉田の好守に阻まれ、なかなか

ゴールをものに出来ず、終始小松ペースの試合となった。（後藤）

熊本女商 17（9－5／8－9）14 有磯

	【熊本】	得	【有磯】	得
GK	岩井	0	水谷	0
GK	那須	0	野田	0
FP	泉	3	田中	3
FP	平岡	0	柿埜	0
FP	上田	0	星場	0
FP	河田	2	丸山	2
FP	磯崎	0	宮本	2
FP	河野	5	網	0
FP	林田	6	安井	5
FP	田中	0	円戸	0
FP	寄田	1	舟金	0
FP	赤星	0	十丸	2
PT		17（2）		14（3）

（審・清水 菊池）

熊本女商がロングシュートとスピードに乗ったカットインしてのシュートで先制すれば、有磯もようやく11分後に走りのコンビが出はじめ、ロングとポストでつめていった。しかし、ディフェンスにもう一つ脚力が生かせず、熊本女商のブラインドをついたシュートを許し苦しい展開をした。後半に入り、有磯の足が冴えだし速攻とPTで追い上げたが、熊本女商は要所でロングを決め逃げ切った。（千野）

名古屋短大付 17（9－2／8－8）10 彦根西

	【彦根】	得	【名短】	得
GK	元持	0	田中	0
GK	谷	0	小畠	0
FP	久保田	1	柴田	2
FP	西河	2	原	2
FP	辻令	0	見口	0
FP	辻美	1	小島	0
FP	成島	1	森山	7
FP	田村	0	石田	3
FP	大西	1	稲垣	2
FP	柿添	0	渡辺	0
FP	久保田	4	高瀬	1
FP	奥山	0	堂処	0
PT		10（1）		17（2）

（審・槇田 三枝）

彦根西は名短付の堅いディフェンスに悩まされ、前半2回のストーリングをとられ攻撃ペースをつかむ事が出来ない。名短付は5分森山のスタンディングシュートで調子に乗り、6分～15分の間森山一人でPT、ロングシュートと4点をあげ、試合を決定づけた。後半に入ってからも名短付のカットインプレーが冴え、全く危げない勝利。（島田）

水海道二 17（7－8／6－5／2－1／2－2）16 日川

	【日川】	得	【水海】	得
GK	日原	0	吉葉	0
GK	風間	0	中山	0
FP	岸本	4	寺田	0
FP	樋口	0	石塚	0
FP	青柳	0	飯野	0
FP	小菅	0	小口	12
FP	沼田	3	猪瀬	0
FP	保坂	8	野上	0
FP	三森	0	塚原	0
FP	土橋	0	下條	5
FP	小沢	1	関	0
FP	南	0	渡辺	0
PT		16（2）		17（3）

（審・清水 菊池）

7番が軸の日川、9番、5番のロングシュートに頼る水海道の関東同士、日川リードで前半終了。後半日川は相手退場の機に4点差をつけるが、7番をマークされてパスミスやシュートミスがつづき15分ついに同点となる。勝負は最後4分間、とりつとられつで13－13の延長戦となる。

延長に入るや、リズムをとり戻した水海道が先手をとり逃げ切った。（北井）

▽準決勝

小松市女 15（7－5／8－1）6 熊本女商

	【熊本】	得	【小松】	得
GK	岩井	0	吉田	0
GK	那須	0	新宅	0
FP	泉	0	高田佐	0
FP	平岡	0	高田恭	0
FP	吉川	0	和田	3
FP	上田	0	川端	0
FP	河田	0	高木	3
FP	磯崎	0	藤田祐	6
FP	河野	4	藤田裕	1
FP	林田	2	中川	0
FP	田中	0	浅川	1
FP	寄田	0	中嶋	1
PT		6（1）		15（5）

（審・島田 後藤）

開始早々熊本は多少硬さからかキャッチミスが目立ったが、河野のロングで先取点を取ったあとは両チームスピードある攻防を展開した。熊本はフリースローから、小松はポスト及びカットインからの得点で前半は小松が2点リード。後半に入ると熊本は小松のスピードについて行けずペナルティ4本を取られる。一方、逆に熊本は点差を縮める時にペナルティ2本ミスしたのが大きく響いた。（槇田）

名古屋短大付 15（6－9／9－3）12 水海道二

	【水海道】	得	【名短付】	得
GK	吉葉	0	田中	0
GK	中山	0	小畠	0
FP	寺田	0	柴田	6
FP	石塚	1	原	0
FP	飯野	0	見口	0
FP	小口	4	小島	0
FP	猪瀬	1	森山	2
FP	野上	0	石田	5
FP	塚原	0	稲垣	2
FP	下條	5	渡辺	0
FP	関	1	高瀬	0
FP	渡辺	0	堂処	0
PT		12（0）		15（2）

（審・清水 菊池）

水海道が9番下條を軸にロングとカットインで先制すれば、名短付も2番柴田の小回りのきいたフェイントインしてのシュートと速攻で8分同点に追いつきゲームは盛り上りを見せたが、名短付は数回逆転の速攻チャンスをシュートミスして水海道のペースで前半9－6と折り返した。

後半名短付は相手のシュートをGKの好守から速攻、サイドシュートで4点連取して6分30秒には逆転、さらに足を使っての着実なディフェンスはみごとで水海道を10分間無得点に完封。あせり気味で単発なシュートが目立つ水海道は守ってもラフプレーで退場を出し、前半のコンビのあるプレーが出ないまま終了したのは惜しまれる。（千野）

▽決勝

小松市女 15（7－4／8－3）7 名古屋短大付

	【名短】	得	【小松】	得
GK	田中	0	吉田	0
GK	小畠	0	新宅	0
FP	柴田	2	高田佐	0
FP	原	2	高田恭	2
FP	見口	1	和田	4
FP	小島	0	川端	0
FP	森山	0	高木	0
FP	石田	2	藤田祐	6
FP	稲垣	0	藤田裕	1
FP	渡辺	0	中川	1
FP	高瀬	0	浅川	0
FP	堂処	0	中嶋	1
PT		7（1）		15（5）

（審・島田 後藤）

決勝戦を感じさせないような名短付がのびのびとプレーし、小松のキャッチミスから原の速攻で先取点。一方小松は高木のカットインからペナルティで得点と18分まで一進一退、あと2分で小松は速攻から3連続得点で前半終了。後半小松は名短付のパスを足を動かしカットから速攻につなぎ点差を広げ危げなく優勝する。（槇田）

決勝戦の小松市女対名短付の熱戦

「国体で勝つまではまだ喜べません」と語る谷口監督

喜びの小松市女の選手たち，前例右端が谷口監督

OMRON小形現金自動預金支払機
預金・支払・両替・記帳・残高照会…など、目的にあわせて、CRTでわかりやすく操作案内。だれもが間違いなくスムーズに使いこなすことができます。

OMRON電子レジスタ591-IRC
価格だけでなく、カナ文字で品名をも表示、さらにレシートにも同じカナ文字で印字。明瞭で気もちよい会計が行なえます。

●第20回（女子第11回）西日本学生選手権

大体大が10年連続優勝

第20回（女子第11回）西日本学生選手権は、7月1日から4日まで福岡市民体育館を主会場に東海、関西、中四国、九州各学連の代表男子20、女子12校が参加、トーナメントで行われた。

男子は、予想どおり関西二強の決勝戦となり、大阪体大が同志社に春季リーグの雪じょくを遂げ10年連続優勝した。

女子は、武庫川女(関西)が今年も圧倒的な強味を示し、6連勝を飾った。

男子は上位7校、女子は上位4校が、11月の全日本学生選手権（東京）の出場権を得た。

▽男子1回戦
九州産大（九州）31（16-9、15-9）18 広島大（中四国）
中部工大（東海）28（12-13、16-10）23 福岡大（九州）
名古屋学院（東海）24（12-13、12-10）23 岡山大（中四国）
大阪経大（関西）26（15-10、11-8）18 山口大（中四国）
名城（東海）27（14-5、13-7）12 熊本大（九州）
大阪大（関西）25（13-6、12-8）14 広島修道（中四国）
福岡教大（九州）14（8-5、6-7）12 関大（関西）
近大（関西）31（16-4、15-9）13 名古屋大（東海）
京都産大（関西）27（15-7、12-4）11 広島工大（中四国）
天理（関西）27（15-10、12-11）21 西南学院（九州）
久留米工大（九州）39（22-10、17-11）21 関学（関西）

〈注〉1回戦に予定された沖縄国際大（九州）×岐阜大（東海）は両校棄権で不成立。

▽同2回戦
同志社（関西）31（15-13、16-3）16 九州産大
大阪学院（関西）25（12-11、13-12）23 大分大（九州）
大阪体大（関西）27（15-5、12-9）14 名城
福岡教大 25（15-8、10-13）21 大阪大
中部工大 28（16-7、12-7）14 名古屋学院
久留米工大 28（12-12、16-7）19 大阪経大
中京（東海）34（20-15、14-6）21 天理
京都産大 28（16-10、12-17）27 近大

▽同準々決勝
同志社 33（18-4、15-10）14 大阪学院
大阪体大 32（16-2、16-9）11 福岡教大
中部工大 36（17-11、19-15）26 久留米工大
中京 23（12-9、11-13）22 京都産大

▽同全日本学生第5、第6代表決定戦
久留米工大 33（17-14、16-9）23 大阪学院
京都産大 31（13-13、18-10）23 福岡教大

▽同第7代表決定戦
福岡教大 30（17-9、13-11）20 大阪学院

東海勢の粘り実らず

▽同準決勝
同志社 30（14-17、16-10）27 中部工大

【中工】	得		【同志】	得
新垣	0	GK	堀内	0
内山	0	GK	渡井	0
宮城	3	FP	神之田	1
荷川取	12	FP	石橋	0
与那覇	7	FP	宮下	7
下地	1	FP	蟹江	9
川満	0	FP	高砂	4
竹中	0	FP	森重	4
宇栄原	0	FP	山田	1
高市	4	FP	田嶋	0
久手堅	0	FP	奥畑	4
福井	0	FP	児玉	0

（審・南濤、得丸）

30（3） PT （4）27

大阪体大 31（16-6、15-8）14 中京

【中京】	得		【大体】	得
則武	0	GK	小野	0
田村	0	GK	高橋	0
田中	3	FP	山本	4
太田	4	FP	玉村	8
牧野	2	FP	上野	2
河原	1	FP	菅沼	5
黒田	0	FP	土山	7
犬塚	0	FP	坂本	2
酒巻	2	FP	半田	1
大木	2	FP	北井	0
渡辺	0	FP	西村	2
今井	0	FP	長野	0

（審・松尾、福田）

31（2） PT （2）14

▽同3位決定戦
中京 27（12-12、15-13）25 中部工大

▽同決勝
大阪体大 26（10-9、16-5）14 同志社

【同志】	得		【大体】	得
堀内	0	GK	小野	0
渡井	0	GK	高橋	0
神之田	1	FP	山本	3
石橋	0	FP	半田	0
蟹江	3	FP	菅沼	2
宮下	6	FP	玉村	8
高砂	0	FP	土山	6
森重	3	FP	上野	3
大本	0	FP	西村	3
山田	1	FP	長野	1
田嶋	0	FP	北井	0
奥畑	0	FP	坂木	0

（審・南濤、福田）

26（2） PT （2）14

★ベストセブン▽GK小野（大体大）▽FP山本、玉村（以上大体大）、宮下（同志社）、荷川取（中部工大）、檜原(久留米工大)、田野（京都産大）

健闘した福岡教大

▽女子1回戦
京都教大（関西）16（9-5、7-4）9 岡山県立短大（中四国）
大阪成蹊女短大（関西）11（5-4、6-4）8 福岡大（九州）
九州女短大（九州）24（14-5、10-4）9 山口大（中四国）
福岡教大（九州）16（10-3、6-8）11 大阪教大（関西）

▽同準々決勝
武庫川女（関西）25（15-0、10-0）0 京都教大
福岡教大 25（13-8、12-11）19 中京（東海）
大阪体大（関西）21（9-4、12-3）7 大阪成蹊女短大
中京女（東海）16（9-3、7-1）4 九州女短大

▽同準決勝
武庫川女 14（7-4、7-4）8 大阪体大
福岡教大 20（9-6、11-8）14 中京女

▽同3位決定戦
大阪体大 14（8-5、6-1）6 中京女

【中京】	得		【大体】	得
小間	0	GK	竹山	0
山本	0	GK	吉田	0
大久保	2	FP	伊勢	1
野村	1	FP	筒井	2
徳永	1	FP	望月	2
前田	0	FP	池上	5
山田	2	FP	松本	1
吉田	0	FP	森山	2
須田	0	FP	塚田	1
若山	0	FP	秋山	0
杉野	0	FP	大里	0
畠山	0	FP	小川	0

（審・佐伯、五島）

14（2） PT （0）6

▽同決勝
武庫川女 21（12-3、9-2）5 福岡教大

【福岡】	得		【武庫】	得
井上	0	GK	三宅	0
		GK	水谷	0
和田	0	FP	玉置	3
松田	4	FP	倉光	0
富田	0	FP	川合	3
額田	0	FP	中村	0
曽我部	1	FP	富田	5
白石	0	FP	神並	7
大塚	0	FP	藤山	3
磯部	0	FP	梅木	0
		FP	守行	0
		FP	前田	0

（審・佐伯、五島）

21（2） PT （1）5

★ベストセブン▽GK三宅（武庫川女）▽FP倉光、富田（以上武庫川女）、松田、曽我部(以上福岡教大)、伊勢（大体大）、大久保（中京女）。

●第8回全国高専選手権

地元・宇部が7年ぶり2度目の栄冠

第8回全国高専選手権は8月2、3の2日間、山口・宇部市の俵田翁記念体育館を主会場に、全国の代表12校が参加、トーナメント法式で行われた。

試合は、昨年のベストエイトのうち5校が、今夏も準々決勝に勝ち残ったが、前年優勝の桐蔭学園（神奈川）と地元宇部（山口）が、接戦の準々決勝、準決勝を乗り切り、優勝をかけて初対決、宇部が後半なかば勝負を決める連続ゴールで快勝、49年の第1回大会以来7年ぶり2度目の栄冠を握った。

▽1回戦

舞　鶴（京都）25（13−10 12−10）20 鳥羽商船（三重）

津　山（岡山）20（13−6 7−6）12 長　岡（新潟）

岐　阜（岐阜）22（14−9 8−10）19 明　石（兵庫）

秋　田（秋田）26（13−4 13−7）11 米　子（鳥取）

▽準々決勝

宇　部（山口）26（14−8 12−7）15 舞　鶴

桐蔭学園（神奈川）20（12−10 8−6）16 岐　阜

富　山（富山）23（12−11 11−7）18 津　山

鹿児島（鹿児島）19（13−9 6−8）17 秋　田

▽準決勝

桐蔭学園 17（9−12 8−3）15 鹿児島

宇　部 25（14−8 11−11）19 富　山

▽決勝

宇　部 13（11−10 12−8）18 桐蔭学園

【宇部】	得		【桐蔭】	得
藤　井	0	GK	高　梨	0
笹　尾	0	GK	仲　子	0
田中祐	3	FP	井　上	0
松　本	8	FP	原	3
田中敏	3	FP	長　嶺	4
前　田	1	FP	関　口	5
田村洋	5	FP	江　藤	3
田村正	0	FP	黒　木	3
福　江	0	FP	柴　田	0
町　井	3	FP	中　園	0
河　谷	0	FP	中　平	0
五　東	0	FP	別　井	0

（審・古富、岡村）

23（3）　PT　（4）18

○…後半10分まで14−12（宇部リード）と伯仲した展開だったがこのあたりから桐蔭のディフェンスが疲れをのぞかせて甘くなり、宇部は一気のたたみかけで連続5得点、19−12として大勢を決めた。

試合は、一進一退の攻防となり宇部が技巧的に攻めれば、桐蔭はロング、サイドとパワーフルな攻撃で応しゅう。見応えがあった。

しかし、桐蔭は、6−6のあとパスミス、シュートミスで加点ができず、その間、宇部のゆさぶりにあってリードを許し、結果的には、ここでの巧拙が勝負を色分けた。

（赤地）

●第8回全国高専選手権大会を振り返って●

藤田　信義

第8回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会は、8月2、3日の両日、宇部工業高等専門学校、山口県ハンドボール協会主管により、工業都市宇部市の山口大学工学部体育館、宇部市俵田翁記念体育館において、全国各地区予選を勝ち抜いた12校により開催された。

選手は30度を越す悪条件にもかかわらず、学生らしく、フェアーに元気一杯青春の熱と意気の熱戦を展開し、地元宇部高専が校長以下全校あげての声援、期待に応え一戦一戦勝ち進み、決勝戦では昨年度の覇者・桐蔭学園を、田中を軸にした松本、田村のコンビネーションプレー、好ディフェンスによって破り、第1回大会につづいて2回目の優勝の栄冠をものにした。

高専大会を見直せ

全国高専選手権大会が西日本地区で開催されたのは初めてであり地区の事情により4校の棄権があったのは誠に残念であった。高専生は、全日本学生選手権は勿論のこと、春秋の学生リーグ戦にも出場出来ず、また高体連関係の大会にも出場出来ない現状である。唯一の全国高専大会出場を夢みて毎日の激しい練習に専念している学生諸君の事を考え、高専ハンドボール普及発展のためにも、より多くのチームが参加出来るよう各関係者の配慮をお願いしたい。

ゲーム内容は、全般的にみて技倆伯仲で、地域の格差がなくなったといえよう。速攻は勿論のことスカイプレー、ブロックプレー、ポストプレー等多彩なプレーで場内を沸かしたが、シュートミスが多く目立った。ディフェンスの研究もやや不十分で、シューターに対する〃つめ〃、ポストプレーヤーに対するポジションの取り方、ゴールキーパーとディフェンスとのコンビネーションもこれからの研究課題であろう。

とくに、今大会では鹿児島高専の〃ねばり強さ〃が印象に残った。宇部高専の田中は、193cmの超大型でこれからの活躍が期待される。

＜第1回全国クラブハンドボール選手権大会＞

初の栄冠は湯沢クと日川クに

≪男子≫

▽予選リーグ

○Aブロック

愛媛13―8群馬
滋賀12―0岐阜
愛媛11―9滋賀
群馬12―0岐阜
愛媛12―0岐阜
群馬16―13滋賀

○Bブロック

富山14―9大阪
山梨16―9埼玉
山梨13―9大阪
富山12―11埼玉
大阪16―8埼玉
富山15―8山梨

○Cブロック

茨城12―0高知
茨城14―13石川
石川12―0高知

○Dブロック

秋田23―5三重
青森12―5千葉
秋田17―10千葉
青森11―10三重
秋田16―7青森
千葉12―10三重

○Eブロック

山口20―6栃木
東京13―4長野
山口12―6東京
栃木12―8長野
山口11―6長野
東京15―7栃木

○Fブロック

神奈川8―6静岡
神奈川16―10福井
静岡14―11福井

▽準決勝リーグ

○Aブロック

岩国ク（山口）23―18新居浜ク（愛媛）
岩国ク31―22小松ク（石川）
新居浜ク38―20小松ク

○Bブロック

氷見ク（富山）29―19蒔田ク（神奈川）
七戸ユニオン（青森）23―19蒔田ク
氷見ク24―21七戸ユニオン

○Cブロック

筑波振球会（茨城）22―21前橋ク（群馬）
学芸球験会（東京）28―26前橋ク
筑波振球会21―16学芸球験会

○Dブロック

湯沢ク（秋田）35―18日川ク（山梨）
日川ク20―16清商ク（静岡）
湯沢ク30―16清商ク

▽決勝トーナメント1回戦

岩国ク（山口）23（13－10、10－10）20氷見ク（富山）
湯沢ク（秋田）27（14－11、13－13）24筑波振球会（茨城）

▽3位決定戦

氷見ク26（11－11、15－14）25筑波振球会

▽決勝

湯沢ク24（11－10、13－7）17岩国ク

○…湯沢はナショナル・プレーヤーの斉藤のポスト攻撃を中心に、岩国は全員が走りまくる速攻を中心に、決勝にふさわしく1点を争う白熱したゲームが展開され、前半11―10で湯沢がリードした。後半に入り平均身長で上回る湯沢がディフェンスに冴えを見せ10分過ぎには3点差とした。疲れとあせりの見える岩国はシュートミスが目立ち、じりじりと点差は開き、湯沢が24―17で地力勝ちした。

【湯沢】

	選手	得
GK	吉田	0
FP	佐藤	3
	高山	1
	菅野	4
	佐々木	2
	藤原	1
	半田	5
	斎藤	6
	近野	0
	古関	2

【岩国】

	選手	得
GK	中元	0
FP	善本	3
	岩本	2
	坂本	4
	大江	4
	岡本	0
	土井	3
	樽本	1
	松本	0
	川嶋	0
	沖重	0

（審・後藤、酒井）

17（2）PT（6）24

≪女子≫

▽予選リーグ

○Aブロック

京都9―5三重
三重11―10茨城
京都18―2茨城

○Bブロック

千葉8―7山梨
山梨11―7大阪
大阪8―7千葉

○Cブロック

群馬12―10大分
群馬11―3富山
大分11―2富山

○Dブロック

東京22―5静岡
東京9―8佐賀
佐賀19―7静岡

▽決勝トーナメント1回戦

日川ク（群馬）19（13－4、6－6）10京都ク（京都）
武蔵野ク（東京）16（11－5、5－10）15日本光電ク（群馬）

▽3位決定戦

京都ク16（9－8、7－6）14日本光電ク

▽決勝

日川ク16（7－5、4－6、2－1、3－0）12武蔵野ク

○…若さあふれる日川が走り勝ち、東京はここぞという時にミスが出て得点がのびなかった。一方日川は3番石原のスタンディングシュートが決まり、前半を7対5で日川が折り返す。後半は東京の老巧さが日川の若いディフェンスを突破、3分で逆転。後はお互いの攻守で一進一退、常に東京がリードしていたが、残り1分に日川が追いつき11対11で延長に入る。東京は後半残り3分位から疲れが出たのか、足が動かなくなり、プレーが止まってしまったのは残念。延長に入っても日川は走り、若さあふれるプレーで東京を倒した。

【日川】

	選手	得
GK	丸山	0
FP	梅本	8
	石原	3
	古屋	1
	飯島	2
	梅本	0
	佐野	2
	石原	0

【武蔵】

	選手	得
GK	高橋	0
	吉森	0
FP	一宮	4
	星野	1
	奈倉	1
	山本	4
	冬木	1
	海野	1
	小池	0
	清水	0
	西脇	0
	秋本	0

（審・佐藤、若田）

12（2）PT（1）16

●第1回全国クラブ大会を終えて

競技委員長　吉田定静

8月14日から3日間、静岡県の御殿場市体育館とその隣接地にあります御殿場西高等学校の体育館で、日本ハンドボール協会主催の記念すべき第1回全国クラブハンドボール選手権大会が開催されました。大会は男子22、女子12チームの参加を得、男子は3日、女子は2日間をかけ無事終了しました

先に記念すべき第1回大会と記しましたが、ここまでくるには、クラブ関係者の大変な苦労のもとに過去4回の全国大会が実施されております。今回はれて協会主催のもとにこの大会が開催されたこ

とを思いますと、関係者のよろこびはまことにはかり知れないものがあります。過去4回の大会のうち第3回まで当地静岡で大会がもたれました関係上、今回の大会で静岡県が開催地としてあげられたことは、およその想像もつきますし、大変光栄のことと思っております。が、開催の要請を受けましたのが3月に入ってからでしたので会場の確保等に多少の困難な事がありました。まずは交通の便という事を考えましたが、適当な会場が得られず、御殿場市開催となりました。又、期日も限定され、旧盆の時期と重なり、参加者の皆様にも、いろいろ御迷惑をおかけしたこととお詫びいたします。

今大会を振り返ってみたいと思います。

◎参加チームについて

当初、われわれ主催者に参加チームの選定は任されたもののクラブ連盟からの要望として、ブロック均等男子24、女子12チーム以内とありました。自由に参加受付けをしましたが、結果的に構想通りとなりました。申込数が上回っても多少のことなら、受入れようという心づもりでした。来年度からは、代表数を制限して、ブロック別に推薦数を決めるようですが、当分はこのままの方がよいのではないかと思われます。

◎試合方法について

男子は初日予選リーグ（4又は3チームで6ブロック、2位まで）、第2日目準決勝リーグ（3チームで4ブロック、1位だけ。第3日決勝トーナメントと3日間でおこない、女子は準決勝リーグ（3チームで4ブロック、1位だけ）、第2日目決勝トーナメントと2日間にわたって試合をおこないました。

男子は初日の予選リーグでは従来の前後半戦制をとらず25分一発勝負制をとりました。1日3ゲーム、時間的には成人男子の半分の1.5ゲーム以下ですが、1試合1試合真剣にやっているので、内容的には相当のものがありました。機会があれば、いろいろの大会に適用されたらよいとおもいます。予選リーグ制度も、試合数がふえるので、トーナメント一発勝負よりも参加選手たちの気持をより満足させます。

◎試合について

男女共、県代表チームだけあって実力のそなわったチームがそろい、全国大会にふさわしい大会でありました。男女いずれもベスト4に残ったチームは、クラブチームとはいえ日頃練習をやっていなければだせない個人プレーやチームプレーを十分発揮して戦っていました。男子では元日本代表選手や現役のナショナルプレーヤーが参加して力一杯のプレーをみせてくれて地方のファンの目を楽しませてくれました。

男子決勝は、秋田湯沢クラブと山口岩国クラブとの間でおこなわれましたが、前半山口がゴールキーパー中元選手の好守と大江選手を中心とする速攻で、大型チーム秋田に互角以上の戦いを見せましたが、後半秋田が相手の速攻を封じながら有利な体格で、ポスト斉藤を中心に力感あふれる強引なプレーで得点をかさね、山口をねじふせました。女子は比較的楽に勝ち進んできた山梨日川クラブと予選、準決勝を1点差で勝ちぬいた東京武蔵野クラブの間で決勝がおこなわれました。両チーム共よく洗練された好チームで、山梨は大砲石原のスタンディングからのロングを中心としたチーム、東京はリードマン一宮を中心にスマートさを感じさせるパスワークの早いチームでした。両者共ゆずらず11対11で延長にはいましたが、最後は若さがものをいって山梨がねばり勝ちました。

男女共決勝をふくめて実力伯仲で、好試合が多く見られました。選手及びベンチのマナーも終始フェアーで、観衆にもよい印象を与えていました。

◎審判について

1チーム1名の帯同審判制をとる大会も画期的ではないかと思います。全チーム必ず帯同審判員があり責任審判制がとれれば、運営も非常にスムースにいきますが、現段階ではちょっと無理のようです。特に女子チームの責任審判は困難なチームが多かったです。大会本部でも5ペア準備して、連日2ゲーム担当したペアがほとんどでした。帯同審判員制度は大変結構なことなので、是非共継続発展させてもらいたいです。又、帯同審判員を中心に大会期間中、協会、又は連盟側で資質向上のために審判講習会か研修会を開いた如何かとも思います。

◎その他

クラブチームは、高校、大学又は実業団チームと同様にハンドボールの愛好者の集りですが、それらのチームにない、自分たちでチームをつくり自分たちで練習やゲームを楽しむという非常に好ましい特長があります。特に女子チームは、実業団や大学一流チームとくらべて極端に練習量からくるスタミナや技術の差がみられます。ここにクラブチームだけの大会がおこなわれることは大いに意義のあることであり、今後益々発表させる使命を感じさせられます。

最後にこのクラブ大会をここまでみちびいてきたクラブ連盟の望月孝氏、村田稔氏等の先達者の方々のご苦労に心から敬意を表するとともに、本大会の益々の発展を祈り終りにいたします。

〝国びき国体〟へと盛り上げた第24回教職員大会

石見路の海と湯の町である温泉津町で、男子48チーム、女子6チームが参加し、8月8日から12日までの5日間、第24回全日本教職員大会、第37回国民体育大会ハンドボール競技リハーサル大会が開催された。

この大会は、教職員大会にふさわしく、競技会と研修会が同時に開催されるが、研修会の第一部では、「ハンドボールにおけるフェイントについて」大西武三、「ハンドボール競技者の行動体力から見た適性について」土屋雅男、「学校体育における指導法およびゲーム分析について」小山若、「試合におけるシュート分布についての一考察」山口剛之、「東ドイツと全日本の戦術比較の一考察」「ルーマニアのハンドボール選手強化の社会的背景について」北岡大覚「ハンドボール部活動に関する調査」研究会等の発表がなされた。

又、第二部では、審判審査員、審判員、監督、コーチ、選手の代表40数名が参加し、①ハンドボール競技の魅力を高めるための松ヤニ使用に関する積極策、②ルール改正にともなう実施時期の問題点、③今後の競技場規制について、④判定基準の明確化に関する諸問題、⑤レフェリー研修会のあり方等、現場を担当する指導者ならではの研修会であった。

一方競技の方では、男子で現在の日本のトップレベルにある大阪イーグルスに対し各チームがどのように挑むかが注目されたが、結果は、栃の葉クラブが決勝戦で健闘よく26－23と大阪イーグルスを下し、イーグルスの11連勝を阻むと共に初優勝を飾った。

（北川勇喜）

≪男子≫

▽1回戦

グランパス愛知 24－15 若潮ク
岩手教員クA 26－17 新潟教員
香川教員 32－23 埼玉フェニックス
長崎教員 33－21 奈良教職員
あかぎク 24－19 受教ク
葉隠ク 24－14 神奈川教員B
富山教員A 23－14 岐阜教員
広島教員 27－22 愛媛教員
オールドイーグルス 18－15 三重教員B
宮崎教員 29－26 神奈川教員A
山梨教員 25－19 和歌山ク
愛知教員 18－16 京都教員
東京教員 24－17 岩手教員クB
福岡教員ク 24－12 大阪ハンターズ
熊本教員 32－20 静岡県教員団
岡山教員 28－7 富山教員B

▽2回戦

大阪イーグルス 30－12 グランパス愛知
岩手教員クA 21－9 茨苑ク
三重教員A 27－24 香川教員
山口県教員団A 28－21 長崎教員
あかぎク 16－14 大阪教員ク
島根ク 26－24 葉隠ク
滋賀教員 21－15 富山教員A
スワロー兵庫 29－14 広島教員
千葉教員 37－11 オールドイーグルス
宮崎教員 36－21 長野教員
福井教員 40－12 山梨教員
埼玉教員ク 25－14 愛知教員
東京教員 28－22 山口県教員団B
福岡教員ク 22－12 ATF
熊本教員 31－22 ロイヤルスワロー
栃の葉ク 29－18 岡山教員

▽3回戦

大阪イーグルス 22－11 岩手教員クA
山口県教員団A 25－24 三重教員A
あかぎク 28－16 島根ク
スワロー兵庫 22－21 滋賀教員
千葉教員 26－15 宮崎教員
埼玉教員ク 28－17 福井教員
東京教員 17－15 福岡教員ク

▽準々決勝

栃の葉ク 26－15 熊本教員
大阪イーグルス 24（13－5、11－15）15 山口県教員団A
スワロー兵庫 30（13－7、17－13）20 あかぎク
埼玉教員ク 18（8－7、10－7）14 千葉教員
栃の葉ク 35（14－8、21－6）14 東京教員

▽準決勝

大阪イーグルス 17（10－8、7－8）16 スワロー兵庫
栃の葉ク 23（11－12、12－6）18 埼玉教員ク

▽3位決定戦

スワロー兵庫 18（7－9、11－3）12 埼玉教員ク

▽決勝

栃の葉ク 26（12－7、14－16）23 大阪イーグルス

≪女子≫

▽1回戦

滋文体ク 20－6 兵庫教員風見鶏ク
神奈川教員 不戦勝 桜球会

▽準決勝

滋文体ク 17（9－7、8－9）16 栃の葉女子教員
大阪コスモス 20（10－1、10－6）7 神奈川教員

▽3位決定戦

栃の葉女子教員 11（6－4、5－5）9 神奈川教員

▽決勝

大阪コスモス 19（10－10、9－7）17 滋文体ク

国際試合後記

ジャパンカップ'81と併行して中国女子ナショナルチームを初めて迎えての国際大会4試合が5月25日から31日まで国内実業団のトップチームとの間で行われた。

昨春初の交流を行った両国は、たがいに来年12月の世界選手権（ハンガリー）を目指して強化中。かっこうの前哨戦となったが、中国は独得のタテ攻撃を主武器に、全日本実業団選手権（既報）を終えたばかりの日本チームを追いこみ、3勝1分けで帰国した。

また、この期間中、男子の中国、東ドイツが各1試合の親善試合を広島、名古屋で行った。

第2回女子日中対抗

第1戦、立石電機（熊本）との試合は、5月25日午後6時30分から京都府立体育館で行われた。

中　国 18（8−7 / 10−11）18 立石電機（熊本）

○…中国女子が日本でプレーするのは史上初。一進一退の前半から、立石は後半が始まるや、羽立木下の強シュートで4点を連取、

	【中国】	得	【立石】	得
GK	王豊蘭	0	井村	0
GK	蔡春娥	0	荒木	0
FP	楊淑江	1	姫野	3
FP	楊萍	7	木下	6
FP	呉萍	4	紀野	4
FP	王霞	2	桑原	1
FP	王琳煒	0	藪田	1
FP	周玲	0	羽立	3
FP	朱運珍	1	喜久山	0
FP	郭英沢	0	福永	0
FP	曹錦	1	是枝	0
FP	趙鳳龔	2	亀岡	0
	18	（3） PT （2）		18

（審・福井・藤本）

一気に主導権を奪った。

しかし、勝負を捨てぬ中国は、じわじわと反撃、木下がマークされて加点の勢いを止められた立石は苦しい立ち場に立たされた。

それでも24分18−17とリード、逃げ切り可能だったのだが、174㎝の呉萍が一発を狙って切りこんできたプレーを防ぎ切れずPT、楊萍に決められて追いつかれた。

立石は、その直後、逆にPTを得て、「サヨナラ」のチャンスをつかんだが、紀野のシュートは、中国GK王豊蘭にさばかれ、勝利を逃した。

中国は、個人技をうまくまとめ特に全員のフットワークのよさが目立った。

◇

第2戦、ブラザー工業(愛知)との試合は、5月27日午後6時40分から名古屋市体育館で行われた。

中　国 22（11−6 / 11−10）16 ブラザー工業（愛知）

	【中国】	得	【ブ工】	得
GK	王豊蘭	0	屋比久	0
GK	蔡春娥	0	中村	0
FP	楊萍	2	山村	4
FP	郭英沢	1	植田	3
FP	呉萍	2	増永	1
FP	王霞	1	杏原	3
FP	王琳煒	5	竹内	3
FP	趙鳳龔	2	則武	2
FP	曹錦	3	塩谷	0
FP	楊淑江	3	太田	0
FP	周玲	3	松下	0
FP	範蓮雲	0	尾崎	0
	22	（1） PT （3）		16

（審・岩木・浅田）

○…ブラザーは、前半こそ中国と互角にわたりあい、PT2点を含む山村の連続ゴールなどで6−4、9−7と優勢の場面もあったが、後半になると中国の当りの強いディフェンスを恐れたのか、踏みこみの足りぬプレーが多くなりそのため凡失が連続、中国につけこまれてしまった。

中国は、ブラザーのプレーになれるにしたがい、中央、サイドから巧みに攻撃を仕掛け、総合力で一枚上の印象。16−16から174㎝の王琳煒のロングなどで連続6ゴール、勝利を一気に決するというみごとな試合ぶりだった。

中国は、帰陣の速さも相当なもので、なんとか速攻からポイントをと狙うブラザーを封じた。

ブラザーの選手は、試合後、中国のリーチの長さと当りの強さに舌を巻いていたが、これは、欧州型のハンドボールであり、韓国と並んで中国が、日本女子にとって〝大きな壁〟であることを教えた。

（杉山　茂）

◇

第3戦、日立栃木(栃木)との試合は、5月29日午後5時30分から栃木県太平町の日立栃木体育館で行われた。

中　国 17（7−4 / 10−10）14 日立栃木（栃木）

	【中国】	得	【日立】	得
GK	王豊蘭	0	寺沢	0
GK	蔡春娥	0	斉藤	0
FP	楊萍	5	水上	5
FP	呉萍	4	大高	4
FP	王霞	1	大輪	1
FP	曹錦	3	手打	1
FP	周玲	1	前田	3
FP	王琳煒	1	小根沢	0
FP	楊淑江	2	吉田	0
FP	姜美玲	0	西山	0
FP	範蓮雲	0	小池	0
FP	趙鳳龔	0	栗原	0
	17	（7） PT （4）		14

（審・山下・斉藤）

○…開始早々から速攻、オープンと多彩な攻撃をみせる中国は、楊萍のPTで前半3分に先制、4分には周玲が長身(174㎝)を活かしたロングシュートで加点、19分には周−楊でスカイプレーを鮮やかに決めた。

一方の日立は、4分水上の倒れこみ、7分大輪、前田の速攻コンビで3−3の同点にするなど大健闘だったが、ディフェンスが中国の突進をさばき切れずPTを連続して課せられ、しだいに点差を拡げられた。

後半、日立は、エース大高のロングや水上、大輪の活躍で中国に食いさがり、19分には13−14まで詰め寄ったが、地力に優る中国はそのあと3点を連取、日立はあっさり突き放されてしまった。

（下野新聞戦評から）

◇

第4戦(最終戦)、日本ビクター(茨城)との試合は、5月31日午前10時30分から茨城・水海道二高体育館で行われた。

中　国 17（8−7 / 9−8）15 日本ビクター（茨城）

	【中国】	得	【日ビ】	得
GK	王豊蘭	0	渡辺	0
GK	蔡春娥	0	高橋	0
FP	趙鳳龔	5	染谷	1
FP	楊萍	2	伊藤珠	1
FP	楊淑江	3	岩城	5
FP	周玲	3	志村	5
FP	曹錦	1	村上	1
FP	呉萍	2	中根	1
FP	王霞	0	池田	1
FP	姜美玲	0	伊藤栄	0
FP	王琳煒	1	伊藤好	0
FP	範蓮雲	0	高光	0
	17	（8） PT （4）		15

（審・矢沢・石井）

○…このシリーズ、日本勢は前半こそ五分々々に戦うが、後半になると崩れ、ついに一勝もあげることができずに終った。

全日本実業団選手権直後というハンデを割引いても、これは、やはり〝地力の差〟というほかはなく、ナショナル同士の対決になった時に、尾を引くのではないかと気にかかる。

この試合も、ビクターは、勝ちこし機のPTを落すなどはあったが、終盤、どうしても勝利を、と意気ごむ中国の気力に押されて敗れ、〝善戦〟にとどまった。

中国では、フランス遠征でも注目を集めたという左右両利きの楊

岸がシャープなプレーで、だんぜん光った。バスケットボールから転向したと思われる長身組は、まだまだ荒けずりだが、ハンドボールの感覚を身につけた時は、手におえなくなりそうだ。

王明亜・中国女子監督の話　中国女子の球史は、まだ10年に満たず、まだまだ日本の力には及ばない。3勝1分の成績は幸運にも恵まれ、この勝敗が逆になっていてもおかしくはなかった。

来日前、半月ほどの強化合宿を行ってきたが、4月に日本チームを破ったジュニア女子とは、ほぼ同じ力である。

その意味では、現在のジュニアが、シニアに成長した時が、楽しみといえる。

今後も積極的に日中交流を推進したいが、必ず1試合は、ナショナルチームとの対戦が含まれるのが望ましい。

また、女子のアジア選手権開催を、是非実現させたい。

男子国際親善試合

ジャパンカップ'81に参加中の東ドイツは、5月25日午後6時30分から広島県立体育館で全日本チャンピオンの湧永薬品(広島)と親善試合を行った。

東ドイツ 31（14－12、17－8）20 湧永薬品（広島）

得	【東ドイツ】			【湧永】	得
0	ローデ	GK	GK	福井	0
0	W・シュミット	GK	GK	井藤	0
7	ドライブロート	FP	FP	津川	1
2	ロスト	FP	FP	穂積	2
4	ローテ	FP	FP	池の上	9
1	ヘフト	FP	FP	山本	3
1	デーリング	FP	FP	松本	0
2	ヴァール	FP	FP	生駒	4
1	ペスター	FP	FP	志賀	0
2	D・シュミット	FP	FP	藤本	1
3	クリューガー	FP	FP	戸田	0
8	ヴィーゲルト	FP	FP	溝部	0
31	(6)	PT	PT	(6)	20

（審・中本、東）

○…「親善試合なのだから12名にこだわらず…」という湧永の希望をすげなく退けた東ドイツ、相手が国内チャンピオンと知るだけに、容しゃはない。

11分3－3のスコアは、そのあとの展開に期待をもたせたが、6分ヴィーゲルトのポストプレーを口火に、東ドイツの猛攻がつづき15分8－3、湧永は守勢一方に追われ、攻撃に移っても鋭さがなく点差は開く一方となった。

後半、大差がついたところで東ドイツは、ようやく「親善」に切り替え、そのスキを湧永はついて「20点の目標」をどうにか果した。

東ドイツは、攻守とも基本に忠実で、世界の王者にじっくり構えられては、日本の王者もほとんどつけいるスキがなかった、といっていい。

◇

ジャパンカップ'81に参加中の中国は、5月27日午後7時55分から名古屋市体育館で日本リーグ1位の大同特殊鋼（愛知）と親善試合を行った。

中　国 22（14－9、8－13）22 大同特殊鋼（愛知）

引き分け

得	【中国】			【大同】	得
0	邵志雄	GK	GK	柳川兄	0
0	関　耀	GK	GK	上村	0
4	安福田	FP	FP	中井	1
3	白義順	FP	FP	蒲生	7
5	呉明群	FP	FP	柳川弟	1
0	徐旭波	FP	FP	大原	3
0	李国才	FP	FP	中本	3
1	李英才	FP	FP	花輪	0
3	張　生	FP	FP	浦田	3
3	張　鳴	FP	FP	小野	3
2	劉　豊	FP	FP	田口	1
1	孟優勝	FP	FP	松原	0
22	(6)	PT	PT	(5)	22

（審・川島、森）

◇その他の出場者【中】▽FP孫平生、張保平＝いずれも得0、【大】▽GK山本、FP＝林、更谷、桐山、田中＝いずれも得0

○…後半4分15－10は、大同対各国ナショナルを見つづけている記者の目にも、とりわけ好調の展開とみうけられた。

ところが、このあと大同が、ひんぱんに選手を交替させたスキをついて、中国は1点々着実に返しはじめた。

この粘りは、中国独得のもので日本のナショナルも大いに注意しなければならないものだが、大同は、前半の〝大差〟から、よもやこれほどの力を、中国が残していたとは思わないから、この反撃にあわてた。

先行を狙って強引なシュートが多くなり、8分以降、約10分間ノーゴール。

一方、ペースをつかんだ中国は21分ついに19－19に追いつき23分張生で逆転、25分張鳴で21－19だ。

大同は25分中本で20－21としたが、中国も27分PTで再び2点差大同ベンチは憂色濃かったが、28分のPTを蒲生が決めたあと、終了間ぎわ、中本が空間からねじこんで、辛くも引き分けた。

（杉山　茂）

来日3チーム オールメンバー

【東ドイツ】

	背番号	氏名	身長
GK	①	ローデ	184cm
	⑫	W・シュミット	184
FP	②	ドライブロート	196
	③	ロスト	183
	④	グルーナー	187
	⑤	ヘフト	183
	⑥	D・シュミット	181
	⑦	クリューガー	178
	⑧	デーリング	186
	⑨	ヴィルク	188
	⑩	ヴァール	190
	⑪	ヴィーゲルト	185
	⑬	ペスター	178
	⑭	ローテ	200
	⑯	W・シュミット	183

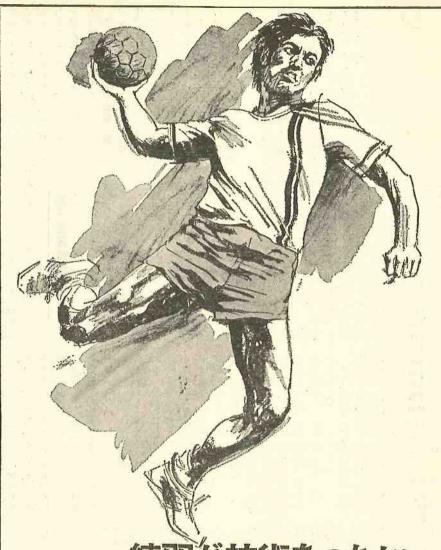
(注)⑫はヴィーラント・シュミット
⑮はウォルフガン・シュミット

【中国男子】

	背番号	氏名	身長
GK	①	邵志雄	190cm
	⑫	関　耀	192
FP	②	安福田	190
	③	孫平生	190
	④	李国才	185
	⑤	呉明群	190
	⑥	劉　豊	188
	⑦	張　鳴	191
	⑧	孟優勝	186
	⑨	徐旭波	190
	⑩	李英才	178
	⑪	張　生	186
	⑬	張保平	188
	⑭	白義順	190

【中国女子】

	背番号	氏名	身長
GK	①	王豊蘭	170cm
	⑯	蔡春娥	175
FP	②	王　霞	174
	③	耍美玲	173
	④	楊淑江	168
	⑤	楊　萍	160
	⑥	呉　萍	174
	⑦	王琳煒	174
	⑧	周　玲	169
	⑨	曹　錦	165
	⑩	趙鳳養	169
	⑪	範蓮雲	167
	⑬	朱運珍	172
	⑭	郭英沢	172

・○内数字は今回の背番号

練習が技術をつちかい
技術が信頼を支える

きょうの反省を、あすの練習に、試合に結びつける……スポーツマンにとって、大切な心がまえです。常により高度な技術をめざしてチャレンジする——それはブラザーが目ざしているものと一致します。技術がチームメートの信頼を支えるように、お客さまの信頼に応えるのは、高度な技術に支えられた品質以外にないのですから——。

BROTHER
ブラザー

ブラザー工業株式会社
ブラザーミシン販売株式会社

新たに「IHFカップ」

IHF(国際ハンドボール連盟)は、今シーズンから、ヨーロッパで新しい国際クラブ対抗を開くことになった。

これは、各国選手権(全国リーグ)の2位チームによって争われるもので「IHFカップ」と呼ばれる。

各国選手権の優勝チームによる「ヨーロッパカップ」は、男子が一九五七年から、女子が六一年から行われており、各国カップ戦の勝者による「ヨーロッパ・カップオブ・カップス(ウィナーズ・カップ)」が、一九七七年から始まっている。

「IHFカップ」は、三番目のビッグトーナメントで、有力クラブが各国協会を動かして、スタートにこぎつけたと伝えられる。

ペルシャ湾球界が結束

ペルシャ湾沿岸諸国のハンドボール熱は高まる一方だが、このほどアラブ首長国連邦(エミレート)サウジアラビア、バーレーン、カタールなどが中心となって「アラビアン・ガルフ・ハンドボール連盟」を結成、さっそく加盟各国のチャンピオンチームを集めて「ペルシャ湾カップ」を開き、アラブ首長国連邦の「アル・アライン」が優勝した。

これらの国の有力クラブは、ヨーロッパから選手を助っ人として呼び集めはじめており、近い将来かなりの実力を備えることとなろう。

なお、オーマンがハンドボールを始め、同連盟のメンバーになった。

ユーゴ国際でソ連完勝

かつて日本(男子)も参加したことのあるユーゴの国際サマートーナメント「タシマイダン・カップ」が、今年も強豪4カ国を集めて行われ、ソ連が4戦全勝で優勝を飾った。

ソ連は、東ドイツに20−19で辛勝した以外は、圧倒的な強みを示し、上昇ムードといわれるユーゴも20−14で一蹴された。

東ドイツは、昨年のモスクワ・オリンピック(優勝)以降、5月のジャパンカップまで、公式戦無敗をつづけていたが、1年ぶりで土をつけられ、ユーゴにも21−16で敗れ3位だった。

なお、同時期に行われた女子のユーゴ国際も、ソ連が決勝でユーゴを16−15で破り優勝した。

訪欧する全日本女子と対戦が予想されるユーゴ・ジュニアがチェコを17−13で破って3位となり、注目された。

巨人GKが1軍入り

2年ほど前、本誌にも紹介され話題を集めた西ドイツのGK、身長215㎝のD・バルツケが、このほど発表された第10回世界選手権候補選手に加えられ、檜舞台登場が有望となってきた。

ゴールより高い巨人GKとしてファンの度ぎもをぬいたバルッケは、衝撃的なデビューの割に、そのあと鳴かずとばず、西ドイツのV・ステンツェル監督は、彼の起用を望んでいないなどとも伝えられていた。

しかし、昨シーズンから西ドイツ・リーグの名門F・A・ギョッピンゲンに移り、安定したキーピングを見せはじめ、名GKホフマンのナショナル引退もあって、世界選手権候補にノミネートされたデビュー当時より、はるかに動きがいいというから、正式に代表選手となれば、本大会の話題となるにちがいない。

アジア審判講習会が活況

昨年12月、日本協会がIHFからF・エリアス氏を招いている時クウェートが、IHFの審判長ともいうべきC・ワング氏を講師に「アジア・レフェリーコース」を開き、一部で議論を呼んだが、近着のIHF公報は、この講習会には韓国(2名)をはじめ中国、クウェートなど12カ国43名が出席、活況だったと伝えている。

来年アジア大会を開くインドやこれまであまりハンドボール活動の伝えられていないネパールからも、レフェリーが送られた。

なお、同公報によると、IHFは9月9日から13日まで西ドイツで来年の世界選手権候補レフェリーの非公開講習会を開くが、ここにはアジア、アメリカ、アフリカ大陸からも候補レフェリーが参加するという。

世界女子ジュニア近づく

今秋10月13日から自国に第3回世界女子ジュニア選手権を招き中国と同組になるカナダ女子ジュニアが、このほど強化のためにヨーロッパ遠征、西ドイツのジュニアトーナメントなどに出席したが、実力は未だしという感じだった。

西ドイツのトーナメントでは、ブルガリアに16−16で引き分けたが、ユーゴには21−31で大敗、西ドイツにも10−18で敗れた。

ところで本大会だが、ルーマニア、東ドイツ、ポーランド、ハンガリーなど東欧勢が〝欠場〟したため、にわかに中国、韓国の両代表に関心が集っている。

特に、中国はデンマーク、フランス、カナダが予選リーグの相手だけに1位での通過も期待でき、韓国にも上位進出のチャンスがある。

世界男子ジュニア各地域予選

▽ヨーロッパ

フランス	41−11	イギリス
フランス	34−10	イギリス
スイス	20(分)20	イタリア
スイス	18−16	イタリア
フィンランド	20−15	オランダ
オランダ	22−14	フィンランド
オーストリア	10−8	西ドイツ
西ドイツ	17−11	オーストリア
スペイン	26−17	イスラエル
スペイン	28−25	イスラエル

この結果、フランス、スイス、オランダ、スペイン、西ドイツが代表に決定(本大会組み合せは本誌前号既報)

▽アフリカ決勝

ナイジェリア 20−18 チュニジア

▽アメリカ決勝

アルゼンチン 記録不明 メキシコ

私と二百冊の機関誌

杉山茂

今月号は第200号である。200冊。創刊した35年から21年目ということになる。

この200冊に、私が原稿を書かせていただかなかったのは2〜3回あるか、ないかだろう。

思えば、永いおつき合いだ。OBやOGに会うと「まだ、機関誌に書いているんですか」といわれる。

私にとっては、ホームグランドの一つ。1冊に、1頁に、そしてそこに登場して来た選手一人々々に愛着がある。

創刊した当初、私とこの雑誌がこんなに〝密着〟するとは、想像しなかった。

情報に飢(う)えていたハンドボール関係者が、機関誌目がけて、原稿を殺倒させる、と思ったからである。

あてがはずれた。発刊を喜んで下さったかたは、それこそ数え切れないほどいらしたが、原稿を寄せて下さるかたは、少なかったのだ。

そこで私や、同業諸先輩が、執道に乗るまで、原稿の面倒をみることになり、いつしか、21年が経ってしまった。

だから、私たちが、原稿の〝主流〟になっているのは、あまり、いい姿ではないし、荒川理事長(現専務理事)にも、何回となく「書き手が片寄りすぎるのは、日本ハンドボール界に、機関誌刊行能力がないということだ。廃刊なり、休刊なりしましょう」と、申しあげてきた。

それでも、機関誌はつづいている。いいのかな、いいのかなと思いながら、私はペンを走らせてきたわけだが、200冊目ともなると、ここまでお手伝いできたことに嬉しさを感じるし、短気をおこして廃めてしまわなくてよかった、と思う。

読者の皆さんにも、感謝の気持ちでいっぱいだ。

200冊を支えてきたのは、当然のことながら〝読む側〟の力である。

いくら、私たちが原稿を書き、雑誌にまとめて送り出しても、読んで下さるかたが居なければ、とっくに終刊の運命を迎えていたろう。

「僕の青春の記録は機関誌です」「部史をつくるのに役立ちました」「日本協会の考えが、とにかく分かります」——そんなおたよりをいただくと、筆持つ手に力が入ったものだ。

一昨年、世界ジュニア選手権の監督でデンマークに遠征した木野実氏が、コペンハーゲンでめずらしい人に会った。

元西ドイツ・女子ナショナルで42年秋、ハンブルグ選抜の一員として来日したS・ミューラーさんが訪ねてきたのだ。

そして、彼女は木野氏に「選手生活の忘れない思い出は、私のことを日本のハンドボール誌がリポートしてくれたこと。それも、よいことばかりを書いてくれたんですよ」といって、一片の記事を示した。

帰国して木野氏は、まっさきにこの話を、私に伝えてくれた。

その記事とは、42年10月の第47号「ミューラー訪問」という拙稿である。

自分の書いた原稿が、ハンドボール人に喜ばれるとは、〝書き屋冥(みょう)利〟につきる。

いささか〝自慢ばなし〟が過ぎた。もちろん、私は、200冊すべてが、読者のお気に召したなどと思いあがってはいない。

大部分の原稿を書かせていただいた以上、機関誌への不満、批判の大部分の責めも負うことになる。

かつてのチームメートは「今月こそ、と期待するが、読み終ると、いつも物足りない」と手きびしい。

「いったい刊行の目的はなにか」という声さえあるのも、知っている。

そうした批判を耳にするたびに歴代の編集担当者と＜機関誌のあるべき姿＞を論じあったが、実のところ、いつも、新しい方向を打ち出せずに終った。

我々が、本職の編集マンでなかったこともあるし、機関誌は機関誌、商業誌ではない、という強気な姿勢も、底に流れていた。

読者がなにを求めているかに応えるより、日本協会の行動、方針を理解してもらうことが主眼という姿勢でもあった。

「機関誌の記事は、昔の大本営発表に似ている」と、先輩に古い言葉を引っぱり出されて、皮肉られたことがあるが、まさか、それほどではないにしろ、機関誌が体制側であるのは、事実だ。

しかし、それだから機関誌はつまらない、刊行する意味がない、というのなら、早速に「刊行をとりやめたらいい」と思う。

体制側でない機関誌など、世にはないからである。

ただ、＜面白い機関誌＞＜役に立つ機関誌＞にする努力は、強められなければならない。

「せっかく高校チームが購読していても、高校選手にとって魅力がない」という意見は、＜面白い機関誌＞の指針となろう。

以前とちがって、今は商業誌が販売されているので、「青春の記録に…」といった甘い編集方針も機関誌には必要がなくなりつつある。

日本ハンドボール協会も、この4月から財団法人化を果して新しい船出をした。機関誌も、新しい道へ踏み出す時期に来ており、うまい具合に「200号」という一区切りを迎えたといえる。

これまで全国理事会、全国評議員会といったところで「機関誌」が論議されたことはない。

いちど、こうしたテーブルに持ち出して、今後を考えるのも、よいのではなかろうか。

私の勝手をいわせていただければ、ホームグランドを去るのにみれんはないが、ホームグランドそのものがなくなるのは淋しい。

(NHK運動部)

HANDBALL SPECIAL

NEW

3063 ¥12,000

3064

3065

新登場、ハンドボールスペシャル。なぜ、「スペシャル」なのか。

あのシェルソールが、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をアップ。

世界選手権を始め、国際大会で圧倒的な使用率を誇り、数々の栄光へ導きつづけるアディダス・ハンドボールシューズが、スポーツ科学の最新の成果を背景にさらに新たなシェルソールを装備して登場しました。その名も「ハンドボールスペシャル」。速攻性の追求はもちろん、ソールの溝は極限の倒れ込みシュートでも安定した軸足を確保。ターンを容易にする回転ゾーンやグリップ性を高める吸盤、トレフォイル(3つ葉)パターンなど、ハンドボール競技におけるフットワークの意味をマキシムまで追求し、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をさらにアップしています。

勝利を呼ぶ3本線

adidas®

The science of sport.

KSG 兼松スポーツ用品株式会社

〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3☎06-305-1431；〒130 東京都墨田区緑2-12-3☎03-634-1411

IHF審判講習会報告(2)

光島磯雄
岡前義春

新しいルールとその解釈について

◎要点の紹介

法なくして我々の人間社会生活は不可能であろう。人間は共同社会において秩序と安全のもとにおいてのみ生きて行くものであり、そこには当然規則や法律が存在しこれによって秩序と安全が保障されるのである。＜エミール・ホルン（前RSK／IHF委員長・スイス）＞

１　現在の近代ハンドボールのおかれた立場

すべての現代の試合では、速さ、興奮性、点数が多く入る。技術力、試合の雰囲気といったいろいろな要素を綜合して一つのものを組み立てて興味をそそる傾向となって来ているが、そこには一連の――有効な規則――世界中どこででも共通の理解、解釈が出来るものであり、どこでハンドボールが行われてもそれに即したもの――がなければならない。

今日行われているチームゲームとしての近代ハンドボールは、今や世界全土にわたって普及拡張したスポーツとなっている。今なお多くのプレーヤーと加盟国は、その国々の実力向上という振興発展を目指してIHFと密接な関係にある。

マスメディアによる強大なる影響、特にテレビが持つ力が、ハンドボールへの関心を育てることに大きく作用したことは明らかである。この種の宣伝媒体は、短時間のうちにハンドボールの将来についてさまざまなヒントを与えた。即ち、ハンドボールゲームがオリンピックや世界選手権大会でどのようにプレーされるかということが全世界におよぶプロパガンダとして知られるようになり、この結果、若いハンドボールプレーヤーは模倣したい、真似したいと思うアイドルを見出した。いわく「自分達もUdSSRやDDRのようにプレーしたい」「ユーゴやBRDで国際的ランク評価を受けて高度なレベルでプレーをしたい」など。そして我々は、終始不変、ゲームをするにあたって1点をとるため全力で努力し、反則のないチームが有利となり、試合の流れを阻害することのない微妙な配慮の出来る感覚と十分な知識を持つと認められるレフェリーを必要としているのである。

端的に言うと、すべてのハンドボールプレーヤーは、国際場裡において大人として行動したいと思っているのである。

(a)近代ハンドボールにおけるタフネス（はげしさ）の限界

ハンドボールは、多くの攻撃チャンスやハイスピードなプレーと多くの絶え間ない身体接触の起るアイスホッケーのごとき闘争的競技として特色づけられている。プレーヤーの最大の目的は、18歳以上の者で30分×2の時間内に出来るだけ多くの得点を取ることにあるべきである。多くの問題――この数年来我々が「試合のはげしさ」としてとらえて問題視して来たもの――が存在するにもかかわらず我々は再び敢えて本気で問いを投げかけたいと思う。

「我々のハンドボール競技を現行のような闘争的競技のままにしておくのか、又我々の競技の内部構造を根本的に改造する方が良いのか」と。

今や世界的規模において以下の諸点についてはげしい批判がまき起っていることはもはや否定しがたい事実となっている。

――かような暴力行為を容認するようなルール。

――レフェリー指導者とレフェリー相互の、又は監督やコーチの間のルール見解の不統一。

――身体的特性や体力やスピードなどについての過大評価がプレーヤーのフェアーなテクニックの可能性を遠い彼方へ追いやってしまっている。

エミール・ホルン氏いわく、正しいセンスと古くからのスポーツ精神に則ってのハンドボールの将来の発展をどのようにはかるべきか？

(b)コート上にプレーヤー(の数)を確保する必要性について（退場の乱用をいましめる意）

どのチームも過誤を犯した行動について、一時的にせよ、永久的にせよ、反則者をコート外に出すという基本的ルールを適用される。

チームゲームという見地からみて、プレーヤーの追放とか退場は試合の魅力を損なうものである。

昨年のヨーロッパカップの決勝戦（ドルトムントのウエストファーレンホール）で、かの有名なるBRDのグンメルバッハ対ユーゴのナンバーワンチームが対戦したとき、前半の13分にあるプレーヤーが粗暴暴力行為のかどで残り時間全部について追放処分となった。

レフェリーの処置は間違っていないにせよ、しかしながら試合そのものは一万人にものぼる観衆、ファン、熱狂的に興奮していた人人をア然とさせてしまい、全く興味をそいだ内容となりムードが完全に破壊されてしまったのである。

これは何故か？　これは罰則を適用すること自体が試合そのものを否定する結果となってしまったからである。我々は（私が思うには）、若干のハードな試合様相があったとしても、チーム人数は常にコート上に完全におらせるような配慮裁量を正しく適用することによって、観客の側からもハンドボールの質と魅力を向上させることに最適の機会が到来するものと考える。

(c)試合の流れを維持することの

必要性

何年か前、我々はフリースローを笛の合図なしでやることを決めた。このことは、プレーの進行をよりスムーズに、そしてよりスピーディにするためであった。当然フリースローは直ちに行われるようになり、もちろん正しい位置から動かずに投げることにより、より一層試合の魅力の増進に役立ったものである。

そこで我々は、アイスホッケーやサッカーのごとく、反則が起ってもその試合場面に何らのマイナス面の発生が見られぬときは、アドバンテージルールを適用すべきである。

「本当に信頼するにたるレフェリーとは、芸術家のごとく真の意味で微妙な感覚を備えており、試合そのものとルールについての知識経験のあるがゆえに、プレーヤーやチーム側から、たとえどのような状況にあってもそのレフェリーの持つ寛容性（応用さ）が完全に承認されることである」

これにより優秀なレフェリーの合理的で首尾一貫性ある判定とその基準には友論の余地なく従うものである。何にも増して重要なことは、有能熟練なレフェリーは、ゲームの流れが止ったとき初めて罰則の宣告をするものである。それ故レフェリーは反則現象があっても試合中断を遅くしてそのあと罰則内容を知らせる（2分、失格のための黄札、赤札の提示、同様に残り時間全部にわたる追放についても常に必要なことである）。

(d)モスクワ・オリンピックで見聞したこととそれによって得られた知識内容

これはトレーナーやTMK／IHF（技術委員会）や各国協会が常にいかなる国際試合を開催するに当たっても注目、関心を払い、これらを通じて種々の経験を収集し評価する不断の課題である。

チームハンドボールの限りなき発展進歩の段階で、今回ディナモ、ソコルニキーの体育館でどのような性格特徴が見られたか。今まで私が理解したことを経験の総括として以下に述べる。

○多くはないが実際の攻防に新しい様相が現れた。

○ジャンプシュートが少なくなりスタンディングシュートが多用される傾向を見た。

○防御側の旧来の罪とも言えるホールディング、プッシングやその他の反則は、従来よりもあからさまな様相を呈するようになって来た。

○防御側によるゴールエリアおよびゴールエリアラインを悪用浸入することがふえている。

○フリースローラインとゴールエリアラインの間での攻撃側と防御側の反則の区別が、レフェリーによっては首尾一貫性がなく組織的、系統的に取り扱われていない。

○試合運行についての基準が常に一定整合的でなく、技術的、戦術的場面に必ずしもマッチしていない。

合理的で適切妥当なチームプレーの「はげしさ」を確保維持するためには、プレーヤーへの罰則適用については何回も論議することを喚起する。

重要な意義ある試合のあとで、それぞれの様相について、いかに対処し処罰するかについての意見は非常に多かった。

再度にわたって罰則の適用についての吟味検討の必要性が強調された。

これらは、コート上における最低限の規律威信の保持の問題として提起された。

(e)コート上における最低限の規律威信の確立をいかにして達成するか？

一九七七年〜一九八一年7月31日まで有効の現行ルールは、コート上での最低の規律威信が断固不変のものであることを示す証拠とならなかった。1人のプレーヤーに対し3回までの2分退場とその後の自動的失格処分は、レフェリーにとって規律威信確立のため必要不可欠で、根本的に要求されるものである。

よく練習を積んで技術的にも戦術的にも熟達しているチームでは2分退場を無難無害のものとしてしまう技術と巧妙さが多く見られるようになり、この種の罰則が十分なものでないと思われる変容ぶりが明らかとなった。それでは一体どうしたらよいのであろうか？この疑問が我々の長期間にわたるルール改正作業の主眼点となったのである。そして、我々は失格に関するルールの変更に関連してその答を見出したのである。

2 新しいルールの要点

A 新しいルールブック編集上の展望

すべてのハンドボール関係者は今回施行されるルールが、いくつかの点で以前のルールにある欠点、弱点の裏返しとして強力な性格を持つことに気づくであろう。以前に導入された二審制についでのガイドラインとも言えるルール17条はその典型的なものである。

ハンドボール関係者にとって、このルールの施行により従来の様相が一変するであろうことは明らかである。種々の様相の異った項目を分類し、再度順序だてて整理した上で理論的に綜合することが大切である。これらの事柄は、今度こそ新ルールによって解決されるであろう。

1500・3ドアCE

'80年代、再びシビックから始まります。 7年の歳月を刻み、世界89ヵ国200万台*の実績をたずさえて、シビックはいま飛躍的な変貌をとげました。'80年代に世界が求める車とは何か。「実質」と「感性」の両面から、これを徹底して追求した結果、あのシビックを遙かに凌いだ見事に高質の車が誕生したのです。■リッター18km(1500CE 型式E-SR 10モード走行・運輸省審査値) 28km(1500CE 型式E-SR、CF(5速車) E-ST 60km/h・定地走行テスト値)の低燃費。■経済性を高めながら、スポーツカーを想わせる強烈な動力性能。■スリムなボディに驚くほど広い室内。■高級車なみの静けさと高いクォリティ。■しかもこれらを従来同様の低価格で実現したこと。先進の思想をしっかりと受け継ぎながら、再び時代を画する素晴らしい車に生まれ変わったのです。車づくりに新しい流れ(トレンド)をつくるニュートレンドカー、スーパー・シビック。いま世界の街へ。

*昭和54年8月現在 総生産台数(自工会調べ)

先んじる思想。ニュートレンドカー

CIVIC

ムリな運転はやめてガソリンを大切に。
シートベルトを締めましょう。

HONDA

本田技研工業株式会社鈴鹿製作所
●〒513●三重県鈴鹿市平田町1907●TEL鈴鹿0593:78−1212〈代表〉

B 構成上の展望

1 罰則の表現ですべてにわたる重要な変更がルール17条の中にある。

○失格処分がコート上でも適用される。

○17の5の尺度では、すべての粗暴行動については必らず失格処分を宣告しなければならない。

○前記と同様、失格処分はコート外での粗暴行為（暴力行為）についても適用される。

これらの理由については以下に述べる。

今後罰則適用は、チームを対象とするよりも個人を対象とする。

レフェリー、トレーナー、コーチ、プレーヤーに対しての効果的なガイドラインとして、次の2種の対応可能性を示す。

○17の1にある表現、すなわち警告が当然のときは警告を宣告することが出来る。

○17の3には、レフェリーが失格か追放処分を宣告したときは、17の5、17の7同様2分退場を付加して宣告しなければならない。

我々は、この新しいガイドラインがレフェリーにとって安定かつ一貫性ある判定を下すことが容易となることを望み、前記のごとくレフェリーの個人的評価と評合内容、性格の知識の増進について今後もその拡大向上を望むものである。

2 スローをする際の若干の変更

(a)スローイン

単なる原則論によりフリースローとスローインを区別することは今やあまり意味のあることではないと思う。そこで新ルールではスローインをするプレーヤーは直接ゴールへシュートすることも許される。正しいやり方の唯一の条件は、サイドライン上に一方の足を置くこと、その場所はボールがサイドラインを通過したところである。他方の足はサイドラインの内側でも外側でもよい。11の2にあるとおり、スローインに笛の合図は不要である（フリースローと対比せよ）。この結果、コーナースローはルールから消滅した形となった。そしてこれは、スローイン同様笛の合図なしでコーナーからのスローインとなる。

(b)レフェリースロー

レフェリースローを行う根拠は従来と変りはない。ただその実施方法が変更され、今回からはバスケットボール同様のものとなる。15条の規定では、スローを実施するレフェリー（センターレフェリー）の位置から3m以内に両チームの各1名が立つ。レフェリーはボールを垂直にトスアップすることが旧ルールと異る点である。

3 GKのプレーについての制限変更（試合中の行動可能範囲）

新ルール5条において、GKは旧ルール同様に再びコートの全面でプレーに参加出来るようになった。これは観客のプレーに対する魅力を高めるであろう。GKが攻撃に参加して、場合によっては7mスローを投げる場面を見ることも可能となるからである。

4 どんなときに7mスローをとるか。

何年も前からの論議の過程で、旧14条では自分の陣地のコートで相手に対する粗暴行為があったときとなっていた（旧14の1a）。新ルールでは、7mスローは単に明らかな得点チャンスを反則で阻止したときのみに限られる。以前の通り、GKが自分のゴールエリアへ持ち込んだり、又はボールを持ったままでゴールエリアを出たり、FPがゴールエリアへ立ち入ることで攻撃側に対して有利さを得ようとしたり、意図的に自陣エリア内にいるGKにボールを投げ返したりしたときは7mスローをとるべきである（旧14の1b～d）。

3 我々にとって最も大切で最良のものは、競技規則が首尾一貫したものであり、それが忠実に従うことの出来るものであることである。

新しいルールは、我々のハンドボールの特徴に革命的な変更を加えるものではない。新しいルールは、一九七七年発行のものと比較して極端な改正とは言えないものである。

闘争的ゲームとしての特徴を保持するための着眼点。

我々がすべてのハンドボール関係者に明らかにしたいこととして

○個々の試合の持つ性格を理解すること。

○個々の試合の持つ内面的構造に対応すべきである（プレーヤーの本質に関係したこと）。

○そして最終的にはこれらは前もって決められた具体的な原案、計画によって状況に応じて活動しなければならない（ガイドラインを意味する）。

そしてこのことは、かつてレフェリー教育システムにあり、対プレーヤー、対レフェリー、対トレーナー、そして対観衆についても、そしてスポーツの持つ高度な倫理観を守るため不断の努力を続けなければならない。

基礎となるルールとレフェリーの活躍によって、いかなる場面においても攻撃側と防御側の試合条件が同等となるような共通理解の必要性を不断の努力によって拡大しなければならない。

チームハンドボールのルールとその解釈を基礎としてすべてに先立って我々は真のスポーツ精神によるすべてのハンドボール人の協力に役立つシステムを確立しなければならない。（訳・光島磯雄）

各地の記録

第2回・名円（日韓）定期戦

国内唯一の国際定期戦、第2回名大ク（愛知）×円光大ク（韓国）戦は、8月22、23の2日間、名古屋で2試合が行われ、名大勢が連勝した。昨年の第1回大会は円光大ク側が2勝している。

▽第1戦（8月22日・名古屋市体育館）

名大ク 20（11―8、9―7）15 円光大ク

▽第2戦（8月23日・新日鉄名古屋体育館）

全名大 24（10―8、14―7）15 円光大ク

大学定期戦

▼第21回早慶明定期戦（6月・早大）

慶応 20（11―6、9―9）15 明治

慶応 20（8―9、12―9）18 早稲田

早稲田 23（12―4、11―8）12 明治

慶応は6度目の優勝

▼56年度名大×阪大（6月・名大）

▽OB戦

阪大OB 44―25 名大OB

▽現役戦

阪大 31（14―8、17―12）20 名大

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』第二〇〇号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五六年八月二十五日印刷
昭和五六年九月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五十円(年間購読料三千三百円)